



闘病記で生きる力を

～がんに向き合うために あなたに役立つ500冊～

闘病記は、様々な人生との向き合い方を示してくれます。

誰一人として同じ人生を歩むことはできませんが、

先を歩む方々から得られる情報は、今後の療養生活を送るうえで

闘病中の方やそのご家族の大きな力や支えとなることでしょう。

皆様が自分らしく生きるための一助となれば幸いです。

脳・神経・眼・・・1

口・のど・・・1

胸部・・・5

消化管・・・9

肝臓・胆のう・膵臓・・・23

泌尿器・・・29

女性・・・33

皮膚・・・46

骨・筋肉・・・47

血液・リンパ（白血病）・・・49

血液・リンパ（多発性骨髄腫）・・・53

血液・リンパ（悪性リンパ腫）・・・54

小児がん・・・55

その他・・・56

本書について

本書は、市民活動団体とさいたま市が協働して作成したものです。市民活動団体が選定した図書に基づき、がんに関する闘病記のリストとしてさいたま市が作成しました。

そのため、掲載している図書について、市が強く推奨するものではありません。

本書には、図書館の欄を設けています。これは、平成31年2月時点のさいたま市立図書館における所蔵の有無について、お示ししたものです。図書を借りたい場合は、お住まいの近くにある図書館にお問い合わせください。

図書の概要は、株式会社図書館流通センターの情報から引用しています。

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館	
1	脳・神経・眼	脳腫瘍	○	な	ナカタ カンジ 中田完二	イツスン サキ ヒカリ 一寸先は光 それでも生きたい	広済堂出版	遠い未来のことを考えると、そこには自分の力では変えられないものもある。しかし、今この時をどう生きるかによって、次の瞬間を変えることはできる。白血病、脳腫瘍、そして全盲との闘いで見た著者の命の輝き。* 白血病	2001	○	
2		脳腫瘍 (脊索腫)	○	に	ニシカワ キミコ 西川公子	オヤコ ツズ カイゴ ウタ 母娘で綴った介護の詩	ありあけ出版		2001	○	
3		脊髄腫瘍			た	タキグチ ナカアキ 滝口仲秋	タテ スワ アル 立てない・座れない・歩けなくなって…	本の泉社		2008	○
4					て	テレンン アキコ アキコ テレニン晃子	ゆりちかへ ママからの伝言 ^{デンゴン}	書肆侃侃房	力強く、大きな愛情のつぶやき。優しく、微笑に満ちた言葉。悲しいのではなく、清々しい、吐息…。ガンと闘う母が生まれたばかりの愛娘におくる、かけがえのないメッセージ。	2007	○
5					ろ	ロバート・F・ マーフィー	ボディ・サイレント	平凡社ライブラリー	脊椎にできた「良性」の腫瘍によって神経系が徐々に破壊されるという死に至る病に冒された人類学者が、自分自身や家族、周囲の社会をフィールドワークした人類学的ドキュメンタリー。	2006	○
6	口・のど	口腔がん	○	え	エナツ ミヨシ 江夏美好	ハリ センボン ワタクシ トウビョウキ 針千本 私のがん闘病記	河出書房新社		1982	○	
7			○	に	ニシノ タツキチ 西野辰吉	アンラク セイ シ 安楽 生と死	三一書房	食道がん・口腔がん(棘細胞)に侵された著者の、「余命こそ安楽な死を」という渴望を、文学者の奥深い眼でつづる。医療政策・臨床医・薬害等の医療現場の深い闇を照射する渾身の告発書。* 食道がん	1996	○	
8			○		ニワ コヤタ 丹羽小弥太	それでも私は生きる ^{ワタクシ イ}	主婦の友社		1976	○	
9		上咽頭がん (鼻中隔がん)		む	ムーラン	リライフへの道 ^{ミチ}	新風舎		2007	○	
10		上咽頭がん (上顎洞がん)		お	オオトリ ヨ 鳳ハマ子	オオトリ ケイスケ トウビョウキ 鳳啓助のポテチン闘病記	毎日新聞社		1994	○	
11	上咽頭がん (上顎がん)		み	ミヤケ ヤスオ 三宅泰雄	がん病床からの生還 ^{ビョウシヨウ セイカン}	新日本出版社		1981	○		

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館		
12	口・のど	中咽頭がん (扁桃腺がん)		ぶ	ブレッド・バトラー ジェリー・ジェンキンス	イノチ 生命のフィールド ガンを克服した大 ダイ リーガー	小学館	絶望の淵から、彼はフィールドに戻ってきた。突然のガン宣告を受けながらも、諦めることなく堅固なる信仰を支えにガンに立ち向かい、そして克服した一人の大リーガーの、真実と希望の物語。	1999	○		
13				お	オガワ ヒロコ 小川裕子 オガワ コウゾウ 小川幸三	ユメ ハナベントウ 夢の花弁当	文芸社		2008	○		
14					か	カド ツラユキ 角行之	ボク ゲンキ 僕は元気なガン患者	医療文化社	* 食道がん、胃がん	2008	○	
15					か	カワゴエ ヨウ 川越厚	アクティブ・デス 真快和尚の死の選 ンタク 択	岩波書店	死を迎えるにあたり、患者自身がいのちの主体として納得のいく計画をたて、一連の医療プロセスに積極的に関わりながら生を全うするアクティブ・デス。自ら死をデザインした一人の僧の姿から、新しい医療観を展望する。	1997	○	
16					す	スガスマ テイケン 菅沼定憲	フウフ 夫婦で「がん」を生きる	日本評論社	夫は中咽頭がん、妻は乳がん+食道がん。共に「がん」を体験した2人が学んだのは「がん」と仲良くしましょう、ということ。がん細胞という不思議な生物の正体を探りながら考え、がんになったらどうすべきかを提言する。* 乳がん	2008	○	
17				咽頭がん		す	スガスマ テイケン 菅沼定憲	フウフドウジ 夫婦同時ガンになって ガン患者の サイシン チリョウ ホウコク 最新治療報告	阪急コミュニ ケーションズ	ガンよ、ありがとう。愛を深めてくれてー。夫婦共に自覚症状がまったくなかったが、夫は中咽頭ガン、妻は乳ガンに。患者の立場からのガン治療最新情報と、同時にガンを宣告された夫婦の愛の記録。* 乳がん	2006	○
18						な	ナガサワ ミツオ 永沢光雄	コエ 声をなくして	晶文社	インタビューの名手として知られる著者は43歳の或る日、下咽頭ガンで手術で声を失ってしまう。その闘病生活を1年にわたり赤裸々に綴った日記。何があっても生きる。だから、みんなも生きて欲しいというメッセージを贈る。	2005	○
19						ひ	ヒガシダ ヒサカズ 東田寿和	ニシ ム 西へ向かう	編集工房あゆ い	フォーク世代の50歳。末期がんを宣告されて5年。自らの命を有限と見定めるところから、本音の人生の後半戦が始まる! 「がん」を分岐点とした、ひとりのオヤジの飄々・痛快エッセイ。親友・デューク更家との対談も収録。	2004	○
20						ふ	タマガワ オンセン 玉川温泉ガン闘病日記	トウビョウ ニッキ	無明舎出版	上咽頭ガンで余命3カ月を宣告され、希望の光を「玉川」に求めた著者が綴った、前向きでユーモラス、そして不屈の、渾身の闘病記。	2003	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
21		咽頭がん		み	ミウラ ヨシアキ 美浦義明	イリヨウ カンジャ セイカツ スク 医療は患者の生活を救えるか ある カンキョウ カガク ギジュツシヤ トウビョウ タイケン 環境化学技術者のがん闘病体験か ら	パロル舎	優秀な環境化学技術者として高度成長期を駆け抜け、退職直後に中咽頭がんを発病した著者が、闘病生活の中で見出した全く新しい健康観・死生観を具体的な経験とともに提示。現代医療や現在の日本社会に警告を発する。	2005	○
22					三沢慶子	ハワイの海へ	キャラム		2000	○
23				や	安田つたゑ	一日生きれば	看護の科学社		1991	○
24	口・のど	喉頭がん		え	エグチヒトシ 江口準	ガンに声を奪われて 手術五回・死線 をさまよって知る生きる意味	新生出版	戦争・敗戦・再生・繁栄と目まぐるしく変わった日本。静かな老後を見つめた私を待っていたのは、声を失った人生でした…。激動の昭和を生き、2001年9月、咽頭がんのため声帯を摘出し、声を失った男のものがたり。	2005	○
25				こ	コサカイ ショウソウ 小堺昭三	いまだ見ぬ風景 作家の目で描き 切ったガンとの闘い	文藝春秋	喉頭ガンの手術から3年。慶応病院の診察では、もう大丈夫と担当医にも言われていたほど経過は良好だった著者の突然の死。時に狂おしいまでに生への執着を見せ、時に冷静に現代医療の限界を衝いた、作家のガンとの闘いの記。	1995	○
26					コロムビア・ラ イト	コロムビア・ライトの高等がん漫談	日本医療企画		1994	○
27				し	シノダタクソウ 篠田徳三	ネム キョウダイ 眠れ！兄弟がん がんになった一外 科医の告白	文芸社	* 食道がん	2004	○
28				か	カトウ サチコ 加東祥子	ウシナ コエ 失われた声	テレビ朝日		1990	○
29	舌がん			カトウ コウイチ 加東康一	タケシ イノチ 岳史よ、生命あるかぎり	講談社		1990	○	
30			さ	ササザワ サホ 笹沢左保	ガンも自分のいのちを生きる	海竜社	死は生の一部。人は燃えて生きるべし。人生は死ぬ時までの暇つぶし。自らのガン体験を通して人気作家が書きおろす、生きることの価値、死ぬことの意味。与えられた命に対して真正面から目をむけて、すべての人におくる。* 胃がん	1994	○	
31			し	シオザワトキ 塩沢とき	がん人生	データハウス	* 乳がん	1992	○	

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
32	口・のど	舌がん		と	トガエリチズコ 十返千鶴子	みんなが嘘をついている ^{ウソ} 十返肇 ^{トガエリハジメ} ガンとの闘い	文藝春秋		1969	○
33				は	ハヤサカ ユミ 早坂由美	がんになって ^{ハナ} 花になって ^{カゼ} 風になつて	コスモヒルズ		2007	○
34				ふ	フカダ トシヒコ 深田利彦	愛すればこそ ^{アイ} 真利絵 ^{マリエ} のためにママは癌 ^{ガン} と闘ったよ ^{タタカ}	郁朋社	26歳で舌癌に冒されて11年。病魔との壮絶な闘いの中でも、妻として、母として生きることを諦めなかった静美さん。彼女が幼い娘に残しておきたかった真実の愛と命の記録。	2004	○
35					フクダ ケン 福田謙	コクチ ^{コクチ} 告知 ^ヒ ありし日より	東京図書出版会		2003	○
36				や	ヤマシタ クニコ 山下久仁子	ヒロ、先にごめんね。 ^{サキ} 現役看護師 ^{ゲンエキカンゴシ} が遺した ^{ソウゼツ} 壮絶 ^{トウビョウキ} ガン闘病記	幻冬舎ルネッサンス	舌がピリピリする…。そう言って耳鼻科を受診した時から始まる、ある現役看護師の日記。平成15年1月から翌年4月までの経過を綴る。ガンとの壮絶な戦いの貴重な記録。そして、家族への愛の記録。	2005	○
37				舌がん(舌根部腫瘍)		く	クボタ シンゴ 久保田進吾	ガン告知 ^{コクチ} が私 ^{ワタシ} を変えた ^カ	静岡新聞社	
38	甲状腺がん			き	キヤマ ユウサク 木山裕策	Home ^{カゾク} 家族 ^{ウタ} と歌 ^{ボク} が僕 ^{マモ} を守ってくれた	光文社		2008	○
39				は	ハタエ ノブコ 波多江伸子	からだに ^ヨ 寄りそう ^ヨ がんと暮らす ^{クラ} 日々 ^{ヒビ}	春秋社	自ら二度のがんを経てたどりついた独自の身体観、両親を在宅ホスピスで看取って覚えた病と死との和解術を、医療倫理の専門家が語る。闘わないためのもうひとつの闘病記。	2003	○
40				よ	ヨシカワ ヨ 吉川なよ子	カゼ ^{カゼ} 風はアゲンスト	毎日新聞社	「おしん」といわれた半生、賞金女王のプレッシャー、離婚のストレス、がんとの闘い、リハビリと復帰、がんの再発と死の恐怖、30勝への思い…。プロゴルファー吉川なよ子の波乱にとんだ人生を描く。	1999	○
41				わ	ワダ タカシ 和田 俊	その夏 ^{ナツ} の別れ ^{ワカ}	筑摩書房	23年間共に暮らした最愛の妻をがんで失った著者は、人間にとっての“愛と死”の意味を初めて知る。深い悲しみと尽きぬ感謝をこめて綴られたひと組の夫婦の愛の記録。	1996	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
42	胸部	肺がん		あ	アギ オウスケ 阿木翁助	わが命の灯を 心筋梗塞と肺ガンを 越えて	講談社	* 心筋梗塞	1990	○
43				あ	AYA	愛しのサザビー	バジリコ出版	サザビー、クリスマスと一緒に過ごせなくてごめんなさい。イエス様がね、今年はどうしてもママのオルガンを聞きたいんだって。だから…。ガンで急逝した女性が愛犬サザビーのために残したブログ日記を書籍化。	2007	○
44					アンドウ フサヨシ 安東房吉	雲の上の瞳へ	牧歌社		2006	○
45					イナツキ アキラ 稲月明	僕はガンと共に生きるために医者にな った 肺癌医師のホームページ	光文社新書		2002	○
46				い	イワキ キヨタ 岩城喜代太	定年大病 高齢期に避けがたい「がん」 にいかに対処するか?	かんぼう(自費出版)	大手鉄鋼会社を定年退職し、再就職も決まり、「さあこれから」という矢先に定期健康診断で肺がん発見。治療、手術、自宅療法、定年うつの体験、悩み考えた事柄等をまとめる。「緩和ケアも含めての治療計画」に役立つ一冊。	2003	○
47	胸部	肺がん			イワサキ ジュンコ 岩崎順子	ガンが病気じゃなくなったとき 死があるから こそ次のいのちは生まれ育つ、そして生きる力となり、受けつが れていく	青海社	がんに出会った朝蔵、漁次、落子の子らのいる家族。がんが贈り物に思える日、思えない日をありのままに綴る。この世で一番大切なものとは? 静かに問いかける書。	2005	○
48				う	ウスイ ヒロヨシ 臼井浩義	がんにかつことなんでもやった「肺がん」 が消えた! 複合免疫治療の記録	講談社		1993	○
49				え	エトウ ジュン 江藤淳	妻と私	文藝春秋	「治療不能の癌、三ヶ月の命」宣告はある日、突然下った。死と競うように看病は続く。苦悩の日々とその合間に訪れる甘美な思い出。ついに妻を看取った時、自らも病魔に冒され、死の淵に立つ。生死の深淵を描く。	1999	○

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
50				お	オオハシ ジュンイチ 大橋淳一	プロジェクト・キャンサー「けもの道」 を選んだガン患者	角川書店	肺がんを告知された著者は家族のために10年生きることを決意。手馴れた企業戦略手法で情報を収集・分析、人脈を作り上げ、世界最先端治療に行き着く。自ら最善治療を選択する『患者学』を体現した感動ノンフィクション。	2001	○
51	胸部	肺がん		お	オクヤマ タカヒロ 奥山貴宏	31歳ガン漂流	ポプラ社	自分がガンになるなど想像もせず、気ままに過ごしていた日々、突如「肺ガン」という事実がふりかかってきた。もちろん、ガン細胞とは闘う。でも、オレの日常はガンには譲り渡さない。そんな日々を赤裸々につづる日記。	2003	○
52					オクヤマ タカヒロ 奥山貴宏	32歳ガン漂流 エヴォリューション	牧野出版	余命10ヶ月？それがどうした!? オレは今、生きてるぜ。Web、テレビで大反響の新型闘病記「31歳ガン漂流」から1年、ますます熱い日々を綴る。	2005	○
53					オクヤマ タカヒロ 奥山貴宏	33歳ガン漂流 ラスト・イグジット	牧野出版	オレを覚えていてほしい…。余命宣告期限プラス2ヶ月。ガンと闘いながら、書くことに命を燃やし続けた男が逝った。「32歳ガン漂流エヴォリューション」から亡くなる間際まで、力をふり絞り残したものをブログ中心に編集。	2005	○
54					オノダ ヨシキ 小野田嘉幹	桜は二度咲いた 肺がんと闘い、 逝った女優・三ツ矢歌子	イースト・プレス	3回忌を前に、女優・三ツ矢歌子の闘病生活と死の真実を、夫が苦悩とともに赤裸々に明かす。がんに侵された歌子は、どう生き、どう滅んでいったか。日々の往復書簡を紹介し、苛酷だった闘病と看護の生活を描く。	2006	○
55					カトウ アキコ 加藤明子	天気草 肺腺癌で逝った妻の闘病記	のべる出版	インターネットを通じてがん患者と医療者に共感と感動の漣を広げた家族の記録。ある日、妻の肺にがん、転移。妻と夫は意思として普通を生きた。そしてつかんだ、家族の幸福…。旅立つ前日まで綴られた妻の日記をまとめる。	2003	○
56					カトウ コウイチ 加藤幸一	「天気草」日録 肺腺癌で逝った妻 への挽歌	のべる出版	インターネットで全国に共感と感動の漣を広げた記録。最愛の妻を肺腺がんで亡くした著者の慟哭。入院する妻を支える日々を日記でまとめた愛と感動の書。	2003	○
57					カトウ ダイキ 加藤大基 ナカガワ ケイチ 中川恵一	東大のがん治療医が癌になって あ あ無情の勤務医生活	ロハスメディア	がん治療に関わってきた医者が、34歳にしてがん患者となった。がん患者となった経緯を追いながら闘病・がん患者としての心境を綴る。また、勤務医の劣悪な労働環境など、医療問題についても言及する。	2007	○
58					カノウ ヒデキ 加納秀樹	普通にしようや	どりむ社		2001	○
59					カラマ スウ 唐麻好	夫婦でがんになりまして…	中経出版	* 胃がん	2007	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
60				こ	コウチ テツオ 高地哲夫	ある末期がん患者のつづき マツキ カンジャ	MEDSi	自らが治療の見込みのないがん患者となったことで、医療への考え方の大転換を迫られた麻酔科医。末期がん患者になって初めて見えてきたのは…。麻酔を核とした総合誌『LiSA』連載を単行本化。	2000	○
61	胸部	肺がん		こ	コシハラ ツネオ 腰原常雄	負けてたまるか 肺ガン刑事の長生 マ ハイ ケイジ ナガイ キ奮闘記 フントウキ	二見書房	余命3年の宣告から30年。手術で声を奪われた警部は職場復帰し、再発の不安の中、数々の大事件を解決、捜査一課長まで務めあげた。第2回NHK学園自分史文学賞優秀賞を受賞した「はなしあいて」に大幅加筆。	2002	○
62					コジマ ミツコ 児島美都子	ガンの夫を自宅で看取る 医療ソー シャルワーカーの介護日記から オット シタク ミト イロウ カイゴ ニッキ	農文協	末期ガンで余命六カ月の告知を夫が受けた。その時夫妻が選んだのは「普通の生活」だった…。ガン患者がおだやかに生を終えるためにはどうしたらいいか、妻の介護日記の中にその鍵が述べられている。	1998	○
63					コバヤシ サトシ 小林智	父のがんを知った日から チチ シ ヒ	寿郎社	突如、知らされた故郷の父の肺がん。告知するべきか否か…。初めての経験にとまどいながらも家族が一丸となって父を看取った感動のドキュメント。「がん」に関する本の紹介も充実。	2003	○
64					小林利夫・謙之	ゲルマニウムは蜘蛛の糸	廣川書店		2003	○
65					コバヤシ ヒロタダ 小林弘忠	熟年介護日誌 病人が病人を看ると いうこと ジュクネン カイゴ ニッシン ビョウニン ビョウニン ミ	日本放送出版協会	母は認知症、妻は直腸がん、ふたりを介護する著者もある日、肺がんを宣告されて…。高齢社会の残酷さを実体験として紹介。また、信頼される医療についても考える。	2007	○
66					ササキ ユミ 佐々木由美	医者者のいない診察室 イシャ シンサツシツ	三秀社		2008	○
67					サトウ キミコ 佐藤貴美子	がんを味わう旅 ガン アジ タビ	新日本出版社	夫が「肺がん末期」と告知されてから二年間を共にたたかった妻の手記。社会進歩を求めて職場で思想差別を受けてきた夫の生き方が、積極的にがんをたたかう強さにつながる。	2001	○
68					サナダ ナオン 真田是	ガンから二度の生還 「民医連」手術 体験記 ツタイケンキ	かもがわ出版	肺ガンと食道ガン手術の体験記。運が良かっただけでなく、一番大きな理由は「民医連」が達していた医療水準と独特の国民の健康に奉仕する蓄積であったと考え、命拾いをした患者の目から、民医連へのデマを許さず事実を述べる。* 食道がん	2003	○

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館	
69				す	スイズユクヒロ 水津征洋	ガン 癌よ、ありがとう 宣告されてははじめ て知った生きていることへの感謝と感 動	風雲社	「あなたは癌です」と宣告されてから、ありとあらゆる免疫力を上げる方法を試みた。それと同時に、心の持ち方が病気を治すために、人生を幸せに生きていくためにいかに大切か気付かされた。小細胞癌を克服した著者の手記。	2005	○	
70	胸部	肺がん		た	タチバナ マサコ 橘雅子	アスカ デンゴン センヨク ハハ ムス 飛鳥への伝言 がん宣告の母から息 子への50通の手紙	講談社	生きるって何? 人間って何? 生命って何? 末期がんを抱えて生きる母が、最後の瞬間まで自分の生き方を貫く大切さをわかってほしいと、最愛の一人息子・飛鳥に思いを託す。一年余りにわたって綴られた病状報告。	2000	○	
71					たまきいづむ	マツキ ハハ オク モノ 末期ガンの母への贈り物	桂書房	余命半年と宣言された母に、娘はどんな贈り物をすべきか? 私は母に「告知はしない」という贈り物を選んだ…。悩み、苦しみ、戸惑いながらも選んだ「贈り物」の数々を通して、母と共に過ごした半年間を綴った手記。	2005	○	
72					と	トツカ イツオ 戸塚逸男	イ 生かされて生きる	プレジデント社		1996	○
73					な	ナカヤマ モトキ 中山幹	コウカイ トウビョウ 後悔だらけのがん闘病	新潮OH!文庫		2000	○
74					の	ノハラ カズオ 野原一夫	ハイ ビョウトウ セイカン 肺ガン病棟からの生還	新潮社		1990	○
75					ひ	ヒグチ ツヨシ 樋口強	いのちの落語	文藝春秋	がんと闘う人々とその家族を招待し、東京深川で1年に1度だけかかる創作落語がある。その高座に上るのは悪性の肺がんから生還した会社員…。第2の人生を笑いに捧げる著者がおくる、実体験に根ざした笑いと涙の創作落語。	2005	○
76					ほ	ホリエ セイジ 堀江誠二	まどろみの海へ ある尊厳死の記録	PHP研究所	抗癌剤による治療はしたくない。自分自身を題材に、人が死んでいく様子を記録したい! 末期肺癌で入院したテレビ構成作家が、5か月におよぶ病院生活と死に至るまでの過程を赤裸々に書き出したドキュメント。	2006	○
77					み	ミズサワ シュウ 水沢周	ゆーわけ、こわけ 死を歩む母、グループケアの記録	文藝春秋		1991	○
78				ヤスダ 安田いづみ	ワタクシ イ 私らしく生きたい	さんこう社		2004	○		

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
79				や	やまかわみつ	がん ^{アジ} を味わう やまかわみつる ^{イコウ} 遺稿	東銀座出版社	告知直後 ふいに私のなかに 突きあがってきたあれは 何であったか 体に巣喰う癌とたたかってやる たたかわねばと 火が点いたように私を 熱くしたもの-告知から最期を迎えるまで書き綴った作品をまとめた詩画集。	2000	○
80	胸部	肺がん		や	ヤマグチ ショウスケ 山口正介	ぼくの父 ^{チチ} はこうして死 ^シ んだ 男性 ^{ダンセイジン} 自身 ガイデン 外伝	新潮社	いかにして死すべきかを考え続け、周囲への気配りを最後まで忘れずに逝った父・山口瞳。彼の名エッセイ「男性自身」が黙して語らなかった壮絶な日々を再現する、感涙の記録。	1996	○
81					ヤマダ ケイコ 山田恵子	いのち ^{イノチ} の羅針盤 ^{ラシンパン} 医師 ^{イシ} である娘 ^{ムスメ} が末期 ^{マツキ} がんの父 ^{チチ} を看取 ^{ミト} るとき	講談社	医療とは何か、生命とは何か。大切な人に今あなたができることは何か。医師の視点と娘の目線。今までなかった両方の視線から問いかける医療ドキュメント。	2009	○
82					ヨコツカ タカシ 横塚隆嗣	がんに負 ^マ けてたまるか	桐書房	肺がん、大腸がんと闘いながら、患者会活動を通じて同病の仲間たちを励まし続けた半生記。がんの発見から手術、術後の自己管理まで、がんを克服した患者ならではの体験を紹介する。*大腸がん	1999	○
83					胸腺がん	○	さ	サイドウ ナナ 斎藤菜々	戦士 ^{センシ} に敬礼 ^{ケイレイ} !	悠飛社
84			○	ま	マツヒサ タカシ 松久隆司	お母 ^{カア} さんは薔薇 ^{バラ} の国 ^{クニ} へ逝 ^イ った	文芸社	若くして癌で逝った妻の闘病の詳細を、深い愛情を込めて日記風につづったドキュメント。著者自身の全存在をかけて妻を救おうと苦悩し行動する姿が描かれた渾身の一冊。	2002	○
85		中皮腫(悪性胸膜中皮腫)	○	ふ	フタセ カズシ 二瀬一俊	と ^ト お ^{キオク} 遠い記憶 とあるがん患者 ^{カンジャ} のメモより	東洋出版		2002	○

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
86	消化管	食道がん		あ	アセイ 蛙声-nakai-	あれから三年もう五年、そして六年	星湖舎		2006	×
87				い	イケガメミツコ 池亀光子	人が死ぬということ	新風舎		2005	○
88				い	イチイアイコ 一井愛子	夫と食道癌	健友館		2003	○
89				え	エクニ シゲル 江國 滋	おい癌め酌みかはさうぜ秋の酒 江国滋闘病日記	新潮社	食道癌告知、十時間余の大手術、水一滴飲めぬ六ヶ月間に綴られた日記と詠み続けられた俳句は、壮絶で粋でさえあった。敗れはしたけれど闘いきった187日、闘病俳句223句を収録。表題は「敗北宣言」と題された辞世句。	1997	○
90				え	エクニ シゲル 江國 滋	癌め	富士見書房 (角川文庫は1999)	おい癌め酌みかはさうぜ秋の酒 ドキュメントを超えて表現された、闘病の<現実>と心情のすべて。江国滋が遺した545句。	1997 1999	○
91			消化管	食道がん		お	オオゾラ マユミ 大空真弓	大空真弓、「多重がん」撃退中！ 乳がん胃がん食道がん	宝島社	乳がんの手術から5年、転移ではなく胃がん発症、続いて食道がんも…。女優・大空真弓は「モグラたたき」のようにがんを先手で撃退してきた。「こんな患者みたことない」と医者も驚く多重がん患者・大空真弓の戦い！ * 胃がん、乳がん
92		か			カド ツラユキ 角行之	僕は元気なガン患者	医療文化社	* 咽頭がん、胃がん	2008	○
93		か			カワクボ 川久保とくお	終末への装い	文藝書房	その年もバリウムによる消化器の集団検診を受けた。2週間ほどで「精密検査の要あり」という通知がきた。「ああ、やっぱりまずかったな」と思っただけで気持の動揺はなかった。しかし…。ノンフィクション。	2005	○
94		か			カワムラトシコ 河村淑子	もういちど愛たい	中日出版社	* 胃がん	1986	○
95		く			クガ セイヤ 久賀征哉	風に吹かれて 一開業医の食道ガン 病床雑記	海鳥社	進行性食道ガンの発病、手術、転移、抗ガン剤治療-。遠からぬ死を眼前に見据え、痛みを恐れ、自己の消滅に怯えつつ、残された時をかけ生の意味を問う。医師として、患者として、病床で綴った畢生のドキュメント。	2000	○
96		こ			ゴトウ メイセイ 後藤明生	メント・モリ 私の食道手術体験	中央公論社		1990	○
97		こ			サイゴウ ヒデオ 細郷秀雄	わたしは尊厳死を選んだ ガンに生きた900日	講談社		1993	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館	
98				さ	サカモトケイコ 坂本敬子	さいごの約束 夫に捧げた有機の酒 「和の月」	文藝春秋	造り酒屋の六代目、働きざかりの夫ががんに倒れた。余命半年。あらゆる最新の治療法を試したあとで、妻は決意した。夫の生きたあかしの新しい酒を造ろう。夫婦の絆を問う感動の手記。	2005	○	
99			サトウケン シュザイ 佐藤健と取材 ハン班		イモノモノキロク サトウケン 生きる者の記録 佐藤健	毎日新聞社	末期がんにむしばまれながらも、自らの「生」を最後まで冷徹に見据えた新聞記者。自身の最期の1か月を、湯治場や病床の風景とともに記録する。『毎日新聞』で大反響を呼んだ魂のルポルタージュ。* 肝臓がん	2003	○		
100			サナダナオン 真田是		ガンから二度の生還 「民医連」手術 体験記	かもがわ出版	肺ガンと食道ガン手術の体験記。運が良かっただけでなく、一番大きな理由は「民医連」が達していた医療水準と独特の国民の健康に奉仕する蓄積であったと考え、命拾いをした患者の目から、民医連へのデマを許さず事実を述べる。* 肺がん	2003	○		
101			シノダタクソウ 篠田徳三		眠れ！兄弟がん がんになった一外 科医の告白	文芸社	* 喉頭がん	2004	○		
102	消化管	食道がん		せ	セキネ ススム 関根進	ガンは宿命癒しは運命 闘って克つ 新・夫婦養生訓	太陽企画出版	ガン病棟脱走から一年。宿命と運命に頭をゴツンゴツンとぶつけながら編み出した、中年夫婦の「癒しの養生訓」。日経BP社99年刊「母はボケ、俺はガン」に続く、それから一年間の闘病始末記。	2000	○	
103			セキネ ススム 関根進		母はボケ、俺はガン 二世代倒病顛 末記	日経BP社	突然の癌宣告、入院。さらに時を同じくして老いた母が老人病院に…。姑の介護をしながら夫を支えた妻、そしてメール仲間たちが仕掛けた、「泣き笑いの癌病棟脱出劇」とは？そして「奇跡」が…。	1999	○		
104				た	タカミ ジュン 高見順	タカミ ジュン トウビョウ ニツキ 高見順 闘病日記 上	岩波書店(同 時代ライブラ リー)		1990	○	
105			タカミ ジュン 高見順		タカミ ジュン トウビョウ ニツキ 高見順 闘病日記 下	岩波書店(同 時代ライブラ リー)		1990	○		
106					な	ナカノ ヨウジ 中野孝次	ガン日記 二〇〇四年二月八日ヨリ 三月十八日入院マデ	文藝春秋	限られた日々を見据えた、清冽にして、つよい、40日間のまさに珠玉の言葉…。ガンの告知を受けた故中野氏が、平成16年2月8日から同3月18日まで、検査通院を繰り返し、治療のために入院する日の朝までを記したものの。	2006	○

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
107				に	ニシノ タツキチ 西野辰吉	アンラク セイ シ 安楽 生と死	三一書房	食道がん・口腔がん(棘細胞)に侵された著者の、「余命こそ安楽な死を」という渴望を、文学者の奥深い眼でつづる。医療政策・臨床医・薬害等の医療現場の深い闇を照射する渾身の告発書。*口腔がん	1996	○
108				は	オヤ はにわきみこ	親ががんだとわかったら一家族目線 のがん治療体験記	文藝春秋	72歳の父にがん発覚! 娘は何をすればいいの? 健康ライター娘が描く、明るく読めて役に立つ治療体験記。病院選び、治療法の検討、入院便利グッズなどのノウハウが満載。	2010	○
109				ひ	ヒノ サトミ 日野聡美	この大きな空の上から	新風舎		2007	○
110				ま	マツモトヨシコ 松本佳子	ヒデヒコ アイ 英彦、パパ愛してる	日本放送出版協会	天才的なサックス・プレイヤー松本英彦の後半生を、彼に寄り添うように生き、二度にわたる病魔との闘いにも共に挑んだ夫人の視点で描くノンフィクション。栄光のジャズマンを支えた夫婦愛。	2003	○
111				み	ミウラ マリコ 三浦真理子	サクラ ハナ サ 桜の花が咲くまでは 俳優・三浦洋一 シヨクドウ タタカ ヒビ 食道ガンと闘った日々	扶桑社	「桜の花が咲くまでは生きてほしい、そして本人も生きたいと闘い続けた日々でした…」15年にもおよぶ持病との闘い、そしてガンの宣告。病気を押し立てた最後の舞台。妻が明かす、夫・三浦洋一の闘病のすべて。	2001	○
112				あ	アサノ ジュンイ 浅野純以編	キムラ セイイチ ショウガイ シンギョウキ 木村誠一さんの生涯と『真楽記』	自照社出版		2002	○
113					アラキ ケイイチ 荒木啓一	サドン・デス	鳥影社		2000	○
114				い	イマガワ ランギョ 今川乱魚	ガン タタカ 癌と闘うユーモア川柳乱魚句集	新葉館出版	喪った臓器をさがす人体図 腸健気先立たれた胃の代わりして十年は生きて手術の元を取る 笑い療法でがんに立ち向かう、ユーモア川柳で綴るがん闘病140日。	2003	○
115					イワモト カズナリ 岩本和成	タクケン ショウビョウキョウカ 拓健 パパの傷病休暇	新風舎		2003	○
116					ウカジ ナオコ 宇梶尚子	「ありがとう」と「さようなら」の旅立ち	燦葉出版		2006	×
117				う	ウスダ ケイコ・キヨジ 臼田敬子・喜代二	ホスピスで安らかな旅立ち	郁朋社		2004	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
118	消化管	胃がん			ウメハラ タケン 梅原猛	サンドメ 三度目のガンよ、来るならごゆるりと	光文社	二度のガンは私に多くのことを教えた。そのガンによって私の人生を見る目が、前と比べてはるかに透明になったことはまちがいない。ガンはありがたい収穫を私にもたらしたのだ。大腸ガン、胃ガンを克服した著者が語る。* 大腸がん	2001	○
119			え	エイ ロクスケ 永六輔	ツマ ダイオウジョウ 妻の大往生	中公文庫		2005	○	
120				オオウラ シズコ 大浦静子	あなたにあえてよかった	北國新聞社	がんが再発した大浦郁代さんは、大切な人たちを訪ねる「お別れの旅」をし、遺書を書き、「ありがとう」の言葉を残して34歳で旅立った。郁代さんの母である著者が、思い出の日々や亡くなるまでの姿を綴る。	2006	○	
121			お	オオゾラ マユミ 大空真弓	オオゾラ マユミ タジュウ ゲキタイチュウ ニュウ 大空真弓、「多重がん」撃退中！ 乳がん胃がん食道がん	宝島社	乳がんの手術から5年、転移ではなく胃がん発症、続いて食道がんも…。女優・大空真弓は「モグラたたき」のようにがんを先手で撃退してきた。「こんな患者みたことない」と医者も驚く多重がん患者・大空真弓の戦い！ * 食道がん、乳がん	2005	○	
122				オオハシ キョセン 大橋巨泉	がん オオハシ キョセン バアイ がん 大橋巨泉の場合	講談社	「リッパな癌です」と医者は言った。「癌に対する無知や誤解や偏見」に対して、体験者の立場から明らかにするべく、手記の形式で自らの体験を赤裸々に綴る。附録に、部位別の癌の専門医500を収録。	2005	○	
123				オクモトコウ 奥本康	お	ガン カンジャ ニッキ 癌患者の日記	文芸社	* 大腸がん	2004	○
124		オマタヨシフミ 小俣好文		トウ タタカ お父ちゃまの闘い	神奈川新聞社		2001	○		
125		カド ツラユキ 角行之		ボク ゲンキ カンジャ 僕は元気なガン患者	医療文化社	* 咽頭がん、食道がん	2008	○		
126		カナガワ シンブン ホウド 神奈川新聞報 ウブ 道部	か	ジュギョウ タタカ オオセコウ いのちの授業 がんと闘った大瀬校 長 長の六年間	新潮社	新設校の校長として進めた斬新な学校創りが、教育界に旋風を起こした。全国から見学者が訪れ始めた矢先、突然の末期がん宣告…。教育への熱き思い、迫りくる死の恐怖…。『神奈川新聞』連載を再構成、加筆し単行本化。	2005	○		
127		カラマ スウ 唐麻好		フウフ 夫婦でがんになりまして…	中経出版	* 肺がん	2007	○		
128		カワムラトシコ 河村淑子		アイ もういちど愛たい	中日出版社	* 食道がん	1986	○		

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
129	消化管	胃がん		く	クマサワ ケンイチ 熊沢健一	コクチ ゲカイ ミズカ ジッセン ツマ 告知 外科医自ら実践した妻へのガ ン告知と末期医療	PHP文庫		2004	○
130					クロカワ ノブユキ 黒川宣之	タジュウ コクフク タイケンテキチ リョウガク 多重がんを克服して 体験的治療学	金曜日	著者の前立腺がん、大腸がん、胃がんの治療体験を中心に、がん医療の現状を取り上げる。貴重な「用心と安心のガイドブック」。『週刊金曜日』に連載された「多重がんに見舞われて 体験的治療学」に加筆して単行本化。* 大腸がん、前立腺がん	2006	○
131					クワハラ シンゲキ 桑原繁樹	そして、君はそよ風になった 妻のガ ン死をのりこえて-僕と娘の物語	展望社	幼い娘と僕は毎日、涙の川を懸命に泳ぐ。いつになったら向こう岸に着けるのだろう…。ガンで妻を失った夫とその娘が絶望から立ち直るまでの魂の記録。	2008	○
132					さ	ショウセツ 小説「なんでやねん」と虫が哭く	文芸社		2008	○
133						ササザワ サホ 笹沢左保	ガンも自分ののちを生ききる	海竜社	死は生の一部。人は燃えて生きるべし。人生は死ぬ時までの暇つぶし。自らのガン体験を通して人気作家が書きおろす、生きることの価値、死ぬことの意味。与えられた命に対して真正面から目をむけて、すべての人におくる。* 舌がん	1994
134				さ	サルワタリ ケイコ 猿渡啓子	これからだよ ガンとともに生き抜い たパパへ	新風舎		2006	○
135					シミズ コウイチ 清水浩一	トオル、君を忘れない 森徹のオリ ンピック	ポロンテ。	最高の舞台を目前にして、天才モーグル・スキーヤー森徹に突きつけられたのは絶望的な「がんの宣告」だった。ソルトレーク・オリンピックをめざし、病魔に立ち向かったトオルの魂は家族と恋人に支えられ、最後の輝きを放つ!	2002	○
136					シムラト シュキ 志村利之	ユウシュウ シ 有終の死（魅力学シリーズ）なぜこ うも心穏やかに死を迎えられたのか?	プロスパー出版	日々新たな命の誕生に接していた産婦人科医が、自分自身の肉体が末期のガンに冒され、死が近いこと知った。人間の永遠のテーマである「生」と「死」という重い事実を、淡々と冷静に、しかも洒脱に描いた魂の記録。	2000	○
137					シヨウフクテイ コマツ 笑福亭小松	ゼンリヤク カンジャサマ カンジャ 前略 がん患者様 ベテラン患者よ り、元気の出る壱を一席	PHP研究所	「病気」になっても「病人」になったらあきません…。進行性胃がんと診断された著者が手術後、「5年生存率15%」という絶望と自棄の境地を経て8年。ベテランがん患者からの元気になる涙あり、笑いありの熱いメッセージ。	2005	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
138	消化管	胃がん			シヨウフクテイ コマツ 笑福亭小松	ワガハイ 吾輩はがんである	講談社	「時間をください。まだ小さいうちの子が、おとなになるまでとは言いません…」5年生存率が15%の末期がんを、ファイティング・スピリットで克服。落語家として、父として、夫として、刻み続けた5年間の心の軌跡。	2002	○
139				す	スギムラ タカシ 杉村隆	ミズ カンジャ ワタクシ イゼンテキ 自らががん患者となって 私の胃全摘と その後:がん研究と臨床の明日に想 いを致す	哲学書房	ひとは、自らのがんを知った時、何を感じ、何を考えるか。がん研究の第一人者である著者が、自らの胃がん全摘手術とその後を冷徹に解析し、研究と臨床に結んで行く、たぐいまれな精神の記録。	2005	○
140				そ	ソダ ヒデヒコ 曾田秀彦	がん生活者の730日 2002-2004	西田書店		2007	○
141				た	タカキワ ミサ 高際美佐	ワタクシ ワタクシ エイエン サイ 私は私でありたい 永遠の18歳から のメッセージ	PHP研究所	急速に進行するガンが若い肉体を蝕む中、どんな痛み、苦しみにも絶望せず、周囲の人に生きる勇気を与えつづけた少女。18歳でこの世を去るまでに彼女が遺した感動の記録。	2000	○
142					タカハシ コウイチ 高橋浩一	カミ ホトケ カンゴフ 神さま、仏さま、看護婦さまー。	日総研		2000	○
143					タグチ カズオ 田口和男	ビョウシツ ユメ オ ジュクネン 病室から夢を追って 熟年パソコンオ タクの胃がん闘病記	里文出版	「電車男」ならぬ「胃がん男」が、ソーシャル・ネットワーク・サービスのコミュニティに参加し、オンライン仲間との対話を中心に、病室で描いた夢を求めた闘病記。体調不良を抱える中高年に勇気と希望を与える書。	2007	○
144				た	タケウチ ノボル 竹内昇	シ タイジ タイヨウ カタ 死と対峙し太陽と語る	日本図書刊行会		1997	○
145					タニオカ マサキ 谷岡雅樹	サンモン カンジャ 三文ガン患者	太田出版	ヘイ、ドクター! 教えてくれよ、真実を!! 『Vシネマ魂』で知られる映画評論家が、「32歳・胃の全摘手術」という体験の中から叩きつける、旋破りの闘病レポート。	2001	○
146					タネムラ コ 種村エイ子	シ カンジャ 知りたがりやのガン患者	農山漁村文化協会	進行性胃ガンと診断され、全胃摘出手術を受けた著者が、自らの体験を明るく語る。「こわがりのくせに知りたがりやの、やっかいなガン患者」が、いかにして信頼できる医師・治療法に出会ったかを克明に綴る。	1996	○
147	消化管	胃がん		つ	ツルイ ミチマサ 轟井通眞	チチ オ サンジ サンジュウ ナナフン ヨンジュウビョウ 父、卒わる 三時三十七分四十秒	講談社		1991	○

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
148	消化管	胃がん		に	ニシエ ヨウジ 西家洋治	コクチ テンヨク ツマ 告知せず 天国の妻ヘラブレター	近代文芸社	4人に1人がガンで死ぬ時代、ガンの罹病がもし愛する貴方の家族だったら…。末期ガンで余命3カ月と宣告された妻の、発病から死去までを綴ったエッセイ。	2001	○
149				は	ハナサト ケイ 花里恵	カンジャ ビョウイン オクリモノ がん患者から病院への贈物 やさしい患者接遇の手引き	照林社		1990	○
150				は	ハラ ケイイチ 原啓一	イ カエ インチョウ シンコウイ 生きて、還りぬ。 がん院長、進行胃がんを友に14年	集英社	突如“がん”を告げられた時から、克服しそして最前線に復帰するまでの心の揺れを、患者として、医師として、ボスビス運動家としての三つの角度から照射する貴重な啓蒙書。	1993	○
151					ハラシマ クミコ 原島久美子	ナミダ 涙のアンパンマン・マーチ	書苑新書	死を見据えながらも前向きに。スキルズ胃癌で亡くなった、3児の母親の闘病日記。人は死を見据えつづけながらもこれほど前向きに可能性を追い求めながら生きることが出来るのです。	1995	○
152				ひ	ヒサマツ 久松ゆり	ヒカリ 光	本の森		2003	○
153				ふ	フジタ ケンイチ 藤田憲一	マッキ シヤチョウ テガミ 末期ガンになったIT社長からの手紙	幻冬舎	若手IT社長の著者が突然受けた「余命3カ月」の宣告。絶望と戦いながらも、幸福とは何か、死とは何かを考え続け、残された人生の総仕上げにかかる。闘病生活の中で書き下ろされた一冊。	2006	○
154					フルタチ イチロウ 古舘伊知郎	ジテンシャ サイアイ アネ えみちゃんの自転車 最愛の姉をガンが奪って	集英社 (集英社文庫 は1994)		1991 1994	○
155	ま	マスダ カズヒコ 升田和比古	トモ イ ウツセミバン ワタ がんを友に生きる 空蟬橋を渡ったジャーナリスト	桐書房	数十万人の全国胃切者への応援メッセージ! 食事の工夫、日常生活の改善、病気予防とその対応など、体験をもとにしてまとめた、胃切後遺症克服のバイブル。90年刊の続編。	2003	○			
156		マツイ ジュイチ 松井寿一	トモ イ ウツセミバン ワタ がんを友に生きる 空蟬橋を渡ったジャーナリスト	元就出版社	「がん」と知らされたときは「まさか」と戸惑い、「どうすりゃいいんだ」と途方にくれた。しかし「自分は医療ジャーナリストだ」と気を取り直した…。がん発病から手術、退院、そして現在まで、自身の一部始終を克明に綴る。	2005	○			
157		ミヤガワ ダイスケ 宮川大助	アイ ダイスケ ハナコ 愛をみつけた 大助・花子のおやオヤ日記	朝日新聞社	人気の夫婦漫才の大助・花子が、ガンと闘った5年間の日々。子育て、家庭、仕事などについて、明るく、あっけらかんと綴った家族愛の物語。	1994	○			

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
158				よ	ヨシカワ ユウイチ 吉川勇一	いい人はガンになる ^{ヒト}	KSS出版	タバコ、酒、食べ物、公共機関、生命保険、障害者手帳、妻、親きょうだい…。「闘病」を通して見えてくる、ガンとの爽快な付き合い。自らの体験を通して、ガンと共にある暮らしを語る。* 膀胱がん	1999	○
159		十二指腸がん	○	こ	コザイレイコ 古財麗子	告知せず ^{コクチ}	文芸社		2003	○
160		小腸がん	○	も	モリザネ サトル マキ 森實悟・満紀 カワノ ヨウイチ 河野浩一編	警察官僚ガン闘病ブログ ^{ケイサツ カンリョウ トウビョウ}	中経出版		2007	○
161		小腸肉腫	○	お	オオハラ ケンシロウ 大原健士郎	おれたちは家族 ^{カソク}	朝日新聞社		1989	○
162		大腸がん		う	ウメハラ タケン 梅原猛	三度目のガンよ、来るならごゆるりと ^{サンドメ}	光文社	二度のガンは私に多くのことを教えた。そのガンによって私の人生を見る目が、前と比べてはるかに透明になったことはまちがいない。ガンはありがたい収穫を私にもたらしたのだ。大腸ガン、胃ガンを克服した著者が語る。* 胃がん	2001	○
163				え	えずみなお	回復室Bのドア 夫が末期ガンになったとき ^{カイフクシツ オット マツキ}	風塵社	幸せな家庭を襲った夫のガン。宣告、手術、転院そして別離へと向かう壮絶な5ヶ月間の闘病生活を、妻の視点から描く。残された者の癒しの過程としても、貴重な記録である。	2003	○
164					オクモト コウ 奥本康	ガン患者の日記 ^{ガン カンジャ ニッキ}	文芸社	* 胃がん	2004	○
165				お	オチアイ キヨミ 落合喜代美	ありがとう順ちゃん そして3人の息子へ ^{ジュン ニン ムスコ}	新風舎		2006	○
166					オノアツコ 小野厚子	がん告知一解けなかったパズル ^{コクチ ト}	立風書房	生きたいと願っている夫に、事実を告げるべきなのか。夫は事実を知りたいと思っているのか。家族は…。ふつうの妻が、告知をし、死の準備に入る夫を、娘や義母とともに見守った哀切の記録。	1993	○
167	消化管	大腸がん		か	カシワギ ジュンイチ 柏木純一	ワタリテツヤ オレ 渡哲也 俺	毎日新聞社	人生なんて、言ってみれば流れる雲のようなもの。則天去私ですよ。がんの大手術から6年、寡黙な男、渡哲也はなぜ今、自らをさらけ出し半生を赤裸裸々に語るのか。初めて明かされる衝撃の新事実。	1997	○

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
168					カフサキ 川崎フーフ	がんフーフー日記	小学館	妊婦の妻の直腸がん発覚から、帝王切開で長男を出産し、闘病生活の末38才の若さで亡くなるまでをまとめたリアルドキュメント。ブログに大幅加筆・改稿して書籍化。	2011	○
169					クサフカ チホ 草深智穂	チェディ トウビョウ ニッキ Chediの闘病日記	文芸社		2005	○
170				く	クロカワ ノブユキ 黒川宣之	タジュウ コクフク タイケンテキ テリョウガク 多重がんを克服して 体験的治療学	金曜日	著者の前立腺がん、大腸がん、胃がんの治療体験を中心に、がん医療の現状を取り上げる。貴重な「用心と安心のガイドブック」。『週刊金曜日』に連載された「多重がんに見舞われて 体験的治療学」に加筆して単行本化。* 胃がん・前立腺がん	2006	○
171				し	シバコウヤ 柴孝也	ヨメイハントシ 「余命半年」そして我が妻・由紀子 ツル マ タ は鶴のように舞い立った	悠飛社	東京慈恵会医科大学に勤務する著者の妻の、2年にわたる大腸癌の闘病記。突然のガン発覚から終末まで、自らと妻の歩みをつづる。	2004	○
172					シミズ ヒサノリ 清水久典	シ ツマ タビジ 死にゆく妻との旅路	新潮文庫		2003	○
173				し	シミズ ミツオ 清水光雄	イツショ トシト ツマ 一緒に年取れずにごめんね 妻がが カンジャ ん患者になったとき	小学館	人はこんなにたくさんの悲しみにも耐えられる。サラリーマンを支える妻が、突然病で倒れたら…。新聞記者の夫が、仕事・愛・死を見つめ、家族で闘った636日のがん闘病記。	1999	○
174				せ	セキハラ タケオ 関原健夫	ロッカイ ジンセイゼンカイ ゲンエキ がん六回人生全快 現役バンカー16 ネン トウビョウキ 年の闘病記	朝日新聞社	39歳で大腸がんの宣告を受けて16年。6度のがん手術に耐え抜き、社会の第一線で活躍しつづける現役の銀行役員が明かす闘病記。主治医3人との座談会も巻末に収録。『論座』連載の単行本化。	2001 2003	○
175					タカハシ ヒフミ 高橋一二三	ヤクソク マツキ チチ カソク ノコ 約束 末期がんの父が家族に残した	小学館文庫		2001	○
176					タカハシ 高橋ユリカ	キャンサー・ギフト ガンで死ねなかつ たわたしから元気になりたいあなたへ	新潮社	わたしは35歳で自分のガンを知った。手術後の抗ガン剤の副作用に悩み、気功を始めた。自然治癒力を求めて食餌療法など様々な体験をし、確かな情報を得て、自分の物語を紡いでいく事に癒しをみつける。	1995	○
177	消化管	大腸がん		た	タカハラ 高原レイミ	ステージ4を宣告されて その愛しき ヒビ 日々	ほおずき書籍	ガンの予兆の発見、告知、手術、そして転移…。ガンの手術をした著者が病気を抱えながらも自然とともに生きる姿をユーモアを交えて描いた闘病記。同じ病気で悩む人への応援メッセージ。	2006	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
178					タケナカフミヨシ 竹中文良	イシャ ガン 医者が癌にかかったとき	文春文庫		1994	○
179					タケナカフミヨシ 竹中文良	イシャ ガン 医者が癌にかかったとき 続	文藝春秋	自身の術後9年間、患者から学んだこと、癌治療と医療現場のいま…等々、医師生活40年の日赤医療センター外科部長が、激変する医療の現場での想いを綴ったエッセイ・レポート。	1995	○
180					タナカミチコ 田中美智子	さよなら さよなら さようなら	あけび書房	私、ガンです。でも、元気! 2003年秋、医者から「死の宣告」を受けた著者。ところが1年をとうに過ぎても気分爽快、食欲旺盛、死の準備は着々とすすみ…。大活躍の元国会議員がつづる、痛快洒落なエッセー集。	2005	○
181				て	テラウチ タケシ 寺内タケシ	ダンチョウ オモ 断腸の思い エレキの神様、大腸ガ ンに克つ	マキノ出版	「エレキの神様」を襲った大腸ガン。ガンを機に自分の体について考え、わかったのは「ギターも体も手入れ次第」という事。明るく健康管理を説く「病氣と闘わない」闘病記。執刀医による「大腸ガンの見つけ方と治し方」も収録。	2004	○
182				で	デンヨウノスケ 田妖之介	ガンよ妻を返せ	近代文芸社		2004	○
183				な	ナカノキクコ 中野きく子	シュジュツ コウ サイ コトワ キセキ ダイ 手術も抗ガン剤も断って 奇跡の大 腸ガン闘病記	潮文社	大腸ガンを宣言された患者が、医者の勧める手術を断って退院し、一家をあげての玄米菜食を中心とした自宅療法で、見事に難病を克服したガン闘病記。手術と抗ガン剤偏重の今日の医療に一石を投ずる貴重な記録である。	1992	○
184					ハンバヒトシ 羽柴整	テンゴク トド ネンガジョウ 天国から届いた年賀状 「がんと生 きる」十年間の軌跡	中日新聞社	中日新聞記者の著者が、進行がんと闘い続けた十年を、鋭い観察力と冷静な筆致で活写した闘病記。中日新聞紙上に60回連載し、「がんと生きる」として3冊発行したものに亡くなるまでの原稿等を加える。	1999	○
185				は	ハセガワ チサ 長谷川知沙	グロウアップ ハハ カゾク トウビョウ セイカツ ジツタイ Grow up 母と家族の闘病生活 実 体験	愛生社		2001	○
186					はまの鶴子	Xからのプレゼント 癌告知の果てに	東京図書出版		2006	○
187	消化管	大腸がん		ひ	ひろっちゃん	まだ、最悪なんかじゃないよ	中央アート出版社	あまりにも突然の「余命宣告」。平凡なサーファーはそのときからほんとうに「生きる」ことをはじめた。2003年4月から2005年2月まで著者のホームページに掲載された日記や詩を加筆修正して単行本化。	2005	○

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
188				み	ミナミ 南けんじ	ハ イッショウ フラ 破ガン一笑 笑いはガンの予防薬	主婦の友社	ビートたけしのかつての師、南けんじは、ガンネタに高座で笑いをとり、ひいきの客とガンを着に酒を飲み、大笑い。医者、まさにガン患者の手本、笑いはガンの予防と進行を抑えるから、と言う…。	1997	○
189				も	モミ コ 粗とし子	ヤマザクラ チ アサ シンブン キンシャ トウ 山桜、散る朝 ある新聞記者のがん闘病記	あさんてきーな	「ごめんね、強くなって君を守らなければいけない僕が、こんなビニャビニャになって」そう言い残して夫は死んだ。夫の葛藤、妻の叡知、そして離島医療への提言。南海日日新聞記者・粗芳晴の闘病生活を妻が克明に綴る記録。	2004	○
190				や	ヤマカワ アキラ 山川暁	イ ツ ヒト ゼンシン ショウセツカ イノウエミツハ 生き尽くす人 全身小説家 井上光 晴のガン1000日	新潮社	己の文学のために、ガンを運命として受容することを拒み、敢えて闘病者の道を選んだ「最後のプロレタリア作家」の肖像。冷静な筆致に深い共感を込めて描く、1000日の生。	1997	○
191				よ	ヨコツカ タカシ 横塚隆嗣	がんに負けてたまるか	桐書房	肺がん、大腸がんと闘いながら、患者会活動を通じて同病の仲間たちを励まし続けた半生記。がんの発見から手術、術後の自己管理まで、がんを克服した患者ならではの体験を紹介する。*肺がん	1999	○
192		大腸がん		よ	ヨシタケ テルコ 吉武輝子	イ ヒヤクハチジュウニチメ ソラ 生きる。一八〇日目のあお空	海竜社	自然気胸、肺気腫、難病の膠原病、そして大腸がん。どんなときもかっこよくハードルを越える! 勇気と希望をはたはたと掲げながら生きてゆく、人間としての存在の孤独を綴る。	2006	○
193				よ	ヨシタケ テルコ 吉武輝子	ヤ 病みながら老いる時代を生きる	岩波ブックレット	高齢化の時代、病気との共存はそれなりに覚悟せねばならないが、そのうえで、自分らしく生きるには? 「病気のデパート」である著者が体験から伝える、病気との付き合い方。	2008	○
194		大腸がん (虫垂がん)		い	イトウ シゲキ 伊藤栄樹	ヒト シ 人は死ねばゴミになる	小学館文庫		1998	○
195				き	キンモト ヨウコ 岸本葉子	がんに始まる	晶文社	40歳、独身。著者は虫垂がんと診断された。しかも、S状結腸に浸潤。約2年経つが、再発の不安は消えない。サポートグループに入会、漢方、食事療法、行動療法…がんを受容しながらも希望を捨てない。渾身のがん闘病記。	2003	○
196	消化管				き	キンモト ヨウコ 岸本葉子	シジュウ 四十でがんになってから	講談社	女ひとり暮らし、頑張ってきたが、40歳でがんになった。あとは、がんといかに仲良く付き合っていくか…。のんびりほんわか奮闘記。『文藝春秋』等に掲載されたものを一冊にまとめる。	2006

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
197				て	テラマツ タカシ 寺松隆	ガンへの手紙	新生出版	命の輝きは魂から発散される光の奔流である。盲腸にできたガンを見つめつつ、闘病記、体験記とは一線を画した、思想的考察と自己止揚を目指す、ガン不闘宣言の書。	2003	○
198				き	キノシタ シンゲタロウ 木下繁太郎	シタマチ アカ センセイ 下町の赤ひげ先生いま、癌を生きる	桐書房	医師自らが癌を病んだとき、どう病と向き合ったか…早くから西洋医学と東洋医学の合作医療に挑み漢方治療の大衆化に尽力した著者が、いま、死を抱きしめつつ綴る、未病を治す医療に賭けた半生と最新の癌治療体験記。	1993	○
199		大腸がん (結腸がん)		と	トラタニ アイコ 虎谷愛子	ハナ ツボミ 花の蕾 がんに倒れた娘への鎮魂の キ記	里文出版	「蕾は小さな幼い子供と同じ、いつかはすばらしく成長し、開花するのよね……」27歳でがんに倒れた娘の、萌え出づるような輝きを見せていたその面影、精一杯生きていた存在感を書留めた鎮魂の記。	2003	○
200				な	ナカムラ ミツヨ 中村光代	ホタルの日記 わが子に伝える命の エピローグ 終章	エフエー出版	お母さんが、最後に教えてあげられるのは、人間の命の終わり…。しっかり見てね。-尊厳死を望んだ末期ガンの母親が幼いわが子に伝える自らの「生」と「死」。揺れ動く心を素直に綴る一冊。	1993	○
201				な	ナガオ ヨリコ 長尾宜子	モ 燃えるがごとく、癌細胞を焼きつくす	三五館	1993年、横行結腸ガンを告知され、それから3年間に7度の大手術を受けた著者によるガン闘病記。ガンと闘う権利、医師、精神のノウハウを凝縮した命の対話。巻末に著者作成の「病歴一覧表」付き。	1997	○
202		大腸がん (結腸がん)		ひ		トウ タイヨウ お父さんは太陽になった ガン闘病4 7日間の記録	新風舎	最後に残ったのは、愛でした。働きざかりの夫にくだされた、突然の末期ガン宣告。その日から、36歳という若さでこの世を去るまでを、全力で闘いぬいた夫婦、家族の絆。47日間を妻が綴る。	2005	○
203				ほ	ホリエ タカコ 堀江孝子	うすむらさきのスイートピー	日本図書刊行会		1997	○
204				ま	マック・ター ネイジ アン・ターネイ ジ	ほんとうに知りたいこと ガンをのりこ えた最初の一年	日本基督教団 出版局	ガン告知を受けた後の不安と緊張、苦しみにあっても愛する家族友人に支えられながら、信仰、希望、ユーモアを失わずに生き抜いた感動の一年。ガンと共に歩み続けた妻とその夫の記録。	1996	○
205				あ	アマツ アキラ 天津章	いつでも君と一緒に	碧天舎		2005	○
206	消化管			い	イノウエ ヘイソウ 井上平三	ワタクシ 私のがん患者術	岩波書店		2002	○

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
207	大腸がん (直腸がん)			お	オノ アツコ 小野厚子	がん告知 解けなかったパズル	立風書房	生きたいと願っている夫に、事実を告げるべきなのか。夫は事実を知りたいと思っているのか。家族は…。ふつうの妻が、告知をし、死の準備に入る夫を、娘や義母とともに見守った哀切の記録。	1993	○
208				こ	コジマ ナオキ 小島直記	オニ フラ タビ ナツ ナツ ニツ 鬼よ、笑え「旅の夏」「ガン」の夏」日記	新潮社		1992	○
209				さ	サカイ マサト 坂井正人	ボク アカ ショウガイシャ 僕は明るい障害者「がん」がくれた ク モノ 贈り物	アチーブメント 出版	32歳でがんを宣告され、骨盤内全摘出、大腸の40%を失い、人工肛門・人口膀胱を付着する「第4級身体障害者」となった著者。がんの宣告から、がんと闘い、そしてビジネスを始めるまでをポジティブに綴る。	2006	○
210				し	シオミ センイチロウ 塩見鮮一郎	シ シュウヘン 死の周辺	三一書房	57歳になって著者は初めて死を看取った。妻、エリ、46歳。著者は動転し、混乱し、判断停止にもなった…。4年近く妻の死について考え続けた視点で、告知から、入院、在宅ケア、ホスピス、別れの会までを語る。	1996	○
211	消化管	大腸がん (直腸がん)		し	シライ アイ 白井愛	ジンタイ ジッケン 人体実験 ガンとのたたかい、生との たたかい	れんが書房新 社	ガン患者白井愛の、発病から最期までの4年にわたる壮絶な闘病記。自らの病を、ガン医療の実態を、生の意味とそのアポリアを、正面から見すえ検証し、そしてすべてを受けとめて果てた、激しくも透徹した魂のドキュメント。	2005	○
212				せ	セキグチ テツペイ 関口哲平	シ アワセ ニ ナラウ ヨ 余命宣告6カ月 ヨクフク ワタクシ を克服した私のがんサバイバル50の ホウホウ 方法	徳間書店	大腸ガンが再発し、余命宣告6カ月を受けた。しかし不屈の闘志で克服し奇跡の生還を成し遂げる。死にもぐるいでガンと闘い、打ち克ち、生き還るまで。命がけで知りえた知恵と、サバイバル法を綴る。	2005	○
213					タキモト サチエ 瀧本祥江	レクイエム	日本図書刊行 会		1997	○
214				た	タケウチ 竹内ゆうじ	キ 消えろクソがん ニホンイチ アキラ ワル 日本一諦めの悪い ゲイニン トウビョウ ニッキ 芸人の闘病日記	ヨシモトブッ クス	これほどまでに、明るく諦めないがん患者がいるなんて!! 関西で活躍する芸人・竹内ゆうじは、突然がん宣告を受けた。幼い子ども3人と愛する妻に誓った「生きる」という約束。笑いと涙でいっぱい闘病生活を綴る。	2008	○
215					フシキダ ミツオ 伏木田光夫	バラ イロ シオ 薔薇色の塩	北海道新聞社		1998	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
216				ふ	フユキカオル 冬木薫	マミー、そばにいて	日之出出版	「最期までプロレスラーでいたい」と、がんに背を向ける理不尽大王・冬木弘道。最後のひと言を残し、「天国のリング」へ…。がんと向き合った妻の壮絶看護11カ月。	2004	○
217				み	ミヤケ タカコ 三宅貴子 ミヤケ ミツエイ 三宅参衛	うさぎよ永遠に ガンに命を奪われた 歯科衛生士・三宅貴子「二百十日の 闘病日記」	鶴書院	ガンと闘い抜いた娘の克明な日記を中心に、病床での明け暮れを、時にはユーモアさえ湛えて綴った感動の一書。「娘の死闘を通してガンは必ず治ると確信した」と語る父親が、ガンに打ち勝つための挑戦を続けると誓う。	2004	○
218				も	モリ フミヒコ 森文彦	患者がケアを求めるとき	近代文芸社		1996	○
219				よ	ヨリフジカズヒロ 頼藤和寛	わたし、ガンです ある精神科医の耐 病記	文春新書		2001	○
220	肝臓・胆 のう・膵 臓	肝臓がん		あ	アキヤマ ヒデオ 秋山秀夫	ガン手術そして二年半	学生社	東京の大学病院で手術は無理、余命1、2年と宣告されたガン患者が、別の大学病院で肝臓ガンを手術。生還するまでの二年半を綴る。	1997	○
221	肝臓・胆 のう・膵 臓	肝臓がん		あ	アマノ ヒデオ 天野秀雄 アマノ フサコ 天野聰子	C型肝炎では死なせない	杉並けやき会	本人にまったく責任なく肝炎ウイルスに感染した全国350万人の患者。この人たちを死なせてはならない! 最期まで肝炎対策を訴え続けた末期C型肝炎硬変患者の闘病記。	2008	○
222			お	オガタ マサコ 緒方真子	がんよ、ありがとうがらし 二度のが ん体験から見えてきたもの	文化出版局	がんは、生を考えるチャンスのひとつ。そこから見えてきたものは、いとおいしい人間模様というたくさんの宝物。一度がんになった人、がんにかかることを恐れている人へ贈る、ユーモアあふれるがん闘病記。* 子宮がん	2000	○	
223				お	オハラカヨコ 尾原佳代子	C型肝炎を生きる C型肝炎に感染し てしまった一人の看護師の闘病記	ルネッサンス ブックス		2006	○
224				さ	サトウケン シュザイ 佐藤健と取材 班	生きる者の記録 佐藤健	毎日新聞社	末期がんにむしばまれながらも、自らの「生」を最後まで冷徹に見据えた新聞記者。自身の最期の1カ月を、湯治場や病床の風景とともに記録する。『毎日新聞』で大反響を呼んだ魂のルポルタージュ。* 食道がん	2003	○

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
225	肝臓・胆のう・膵臓	肝臓がん		し	シゲカネ ヨシコ 重兼芳子	いのちと生きる	中央公論社	突然のガン告知、手術、夫の急死…。ホスピス設立に力を注いできた著者が、自らの闘病体験のなかでみつめた生と死。いのちとは何かを問う感動の記録。『婦人公論』に93年6月～7月に「いのちの夕映え」と題し連載された後で加筆訂正したもの。	1993	○
226					シゲカネ ヨシコ 重兼芳子	たとえ病むとも	岩波書店 (岩波現代文庫は2000)	癌の告知から2年半、死の直前まで書き綴った、病院の日々、ホスピスや墓のことなど、悲しみを超えた感動の遺作。弱さや寂しさや孤独感を、限りない優しさにつつまこんで人々の心に希望の灯を点す。	1993 2000	○
227					シノハラ セイジ 篠原靖治	生きてんの精いっぱいー人間・渥美清	主婦と生活社	息を引き取るまでの14年間、渥美清と一心同体だった付き人が綴る、最期の1400日間。四角い天使になった寅さんへの鎮魂歌。初公開の秘蔵写真も多数収録した、涙と苦悩の記録。	1997	○
228					シンドウ カネト 新藤兼人	アイサイキ 愛妻記	岩波書店	妻の肝臓がんの手術が終わり、残り一年余の生命と告げられたとき、夫は妻主演の映画を撮ろうと決意した。火花を散らす二人の老仕事師夫妻の凄絶な愛と慈しみの一年半を哀惜をこめて描く。妻乙羽信子の一周忌に捧ぐ。	1995	○
229				す	スズキ シュツパン ヘンシユ 鈴木出版編集 ウブ部	ゼンソウ イ 禅僧ガンと生きる アラカネ テンリン ロウシ 荒金天倫老師の 1、200日	鈴木出版		1990	○
230				タカハシ サダユキ 高橋貞行	キセル 煙管	日本図書刊行会		1997	○	
231				タカハシ マサキヨ 高橋正清	ガン ^{セオ} を背負ったクリスチャン	碧天舎		2004	○	
232				タチバナ ユウ 立華優	よき ^{デア} 出会い ^{ユタカ} 豊	文芸社		2008	○	
233				タナカ コウイチ 田中孝一	あきらめるな！ ^{カン} 肝ガン患者 ^{カンジャ} 私を見捨 ^{ワタクシ ミス} てた ^{ダイガクビョウイン スク} 大学病院、救った ^{ダイガクビョウイン} 大学病院	コスモトゥーワン	画期的な肝ガン手術によって暗闇の中に一筋の光を見出した一患者の体験談を縦軸に、現在最も進んでいるといわれている慶応病院の肝ガン手術最前線を、体験した著者自身の眼を通してドキュメントタッチで描く。	2003	○	

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館		
234	肝臓・胆のう・膵臓	肝臓がん		な	ナカイ カズオ 中井一夫	ウバ アイ イノチ シンゴン 奪われし愛と生命「新婚さんいらっ	出版文化社	ガンと診断され、余命半年と宣告されてからわずか137日。笑顔で亡くなったあの人は、何を残したかったのか。愛する人や子どもに何を伝えたかったのか。人気番組「新婚さんいらっしやい！」で反響を呼んだある夫婦の物語。	2002	○		
トダカ マユミ 戸高真弓美					キザ アウフ モノガタ							
なべおさみ					ビョウシツ ダマ ハジメ 病室のシャボン玉ホリデー ハナ肇、	文藝春秋					2008	○
					サイゴ ニチカン 最期の29日間							
236					の	ノノヤマヨウコ 野々山葉子					シアワ 幸せだったね、ハナちゃん	扶桑社
237	ま	マチヒデオ 町秀夫	ガン ^キ を切る ^{マエ} 前に読む ^ヨ 本 ^{ホン} 医師 ^{イシ} が体験 ^{タイケン} した「切 ^キ らない」新手術 ^{シンシュジュツ}	光文社	2000	○						
238	み	ミウラ ショウイチ 三浦捷一	がん ^{センキ} 戦記 ^{マツキガン} 末期癌 ^{イシ} になった ^{イシ} 医師 ^{イシ} から の「遺言」 ^{ユイゴン}	講談社	2005	○						
239	肝臓がん			や	ヤスハラ ノブト 安原信人	オレ シ 俺は死なんぞ！	早稲田出版		2007	○		
240				よ	ヨシノケイコ 吉野啓子	もっと ^イ 生きたい ^{ハツケツビョウ} 白血病 ^{カンゾウ} と肝臓ガン ^{カンゾウ} で 逝 ^イ った夫 ^{オツ} とその妻 ^{ツマ} の手記 ^{シュキ}	南雲堂	二人のために生きてという 妻の手紙で堰が切れ 闇夜の中でひとり涙す…。万葉をこよなく愛した元・NHKアナウンサー吉野正美の凄惨な手記と、励まし続けた妻の献身的看護の記録 * 白血病	1999	○		
241				わ	ワカハラ ヒトミ 若原瞳	トウ お父さん！ガン ^イ と言えずに…	近代映画社	1991	○			
242					ワタナベ カズヒロ 渡辺和博	キン・コン・ガン！ ガン ^{コクチ} の告知 ^ウ を受け てぼくは初期化 ^{ショウキカ} された	二玄社	自分はガンだ。だからガンを治さないとイカン。そう心に決めたら楽になった。パソコンを初期化したときと似たりセット感があった。ナベゾ画伯こと渡辺和博の肝臓ガン闘病イラストエッセイ	2004	○		

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館		
243	肝臓・胆のう・膵臓	肝細胞がん			イイジマ ナツキ 飯島夏樹	ガンに生かされて	新潮社	フジテレビ系金曜エンタテイメントで放映された「天国で君に逢えたら」の著者が、余命宣告期限を超えて188日、最期まで綴りつづけた命の記録。新潮社ホームページ連載のエッセイに加筆・修正・編集して単行本化。	2005	○		
244				い	イケダ タカシ 池田 貴	エイチシーシー ウタガ カンサイボウ タタ HCCの疑いあり 肝細胞ガンとの闘 かい	幻冬舎	5年後の生存率50%以下、3年以内の再発率70%といわれるHCC(肝細胞ガン)と闘い続ける池田貴族による書き下ろしノンフィクション。検査、告知、入院、家族の動揺、手術、手術後の日々のすべてを語る。	1997	○		
245					い	イケダ タカシ 池田 貴	ガンを生きる (幻冬舎文庫) ミュージ シャンの孤独な闘い コドク タタカ	幻冬舎	「HCCの疑いあり」(1997年刊)の改題 闘病記:肝臓がん	1999	○	
246						イケダ タカシ 池田 貴	タンジヨウ 誕生	幻冬舎	「ごめん…実は再発した。もし、もしも、おれが早く死んでも、子供をひとりで育てていく覚悟はあるか?」妻の妊娠中、まさかの肝細胞ガン再発から娘・美夕の誕生までを、人気ミュージシャンが感動的に綴る。	1998	○	
247					か	カワサキ ヘイハチロウ 川崎平八郎	イシヤ サイハツ セツ 医者がガンになった 再発しても「絶 タイ アキラ トウビョウロン 対に諦めない」ための闘病論	新風舎	「私はガンと共存して生きる」長年、原発性肝細胞ガンに苦しむ小児科医が、ガンについてめぐらせた考えや専門医との接し方、そして専門医の対応を受け止めたときの感情を綴る。	2007	○	
248					こ	コレナガ ミエコ 是永美恵子	セイタイ カンイシヨク ウ 生体肝移植を受けて (光文社新書) ガンコクチ ハツビャクヨンジュウニチ タタカ 癌告知から八四〇日の闘い	光文社新書		2003	○	
249						す	スズキ 鈴木ヒロミツ	ヨメイ サンカゲツ 余命三ヶ月のラブレター	幻冬舎	余命3カ月の診断。それから考えに考え抜いたこと。最愛の家族、仕事、仲間、そして人生の意味。誰もが必ず直面する「死」を受け入れることとは? 最期に辿り着いた「人生の至福」とは? 感動のラストメッセージ。	2007	○
250						ひ	ヒロスエツトム 弘末勉	カンサイボウ ム ア みたびの肝細胞ガンと向き合って	新生出版	63歳になるまで「肝細胞ガン」に3回も遭遇した9年間の闘病記。完治を願って、苦しみ、悲しみ、悩み、絶望しながらも「一日一生」の心でかいっぱい生きた日々の記録。	2004	○
251				あ	アマノクニオ 天野國男	リツコ ビョウマ タタカ センニチ 律子、病魔と闘った千日	碧天舎		2004	○		

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
252	肝臓・胆のう・膵臓	胆管がん		か	カノウ ミチコ 加納三千子	ニンゲン サイゴ ムカ 人間らしい最期を迎えたい	清風堂書店		2002	○
253				に	ニヤマ ツネヒコ 新山恒彦	タンカン ホウロウキ 胆管がん放浪記	毎日新聞社	毎日新聞記者であった新山恒彦の胆管がん闘病記。毎日新聞社のホームページ「毎日インタラクティブ」での連載に、闘病日記、さまざまな人々から寄せられた思い出などをまとめる。	2004	○
254				は	ハナオカ ツギヨ 花岡次代	ニヒヤクニチ いのち二〇〇日	風の碑社		1995	○
255				や	ヤガミ カズシ 八神和敏	タビダ ツマ 旅立った妻に、ごめんね、ありがとう	ジュピター出版		2007	×
256		胆のうがん		す	スゴウ アキオ 周郷顕夫	ツマ そして妻は「ハッピーっ」と言い遺して逝った	主婦の友社	妻があと3カ月の命と知ったとき、夫は、家族は何ができるだろう…。術後から最期を迎えるまでの11カ月間、がん性疼痛に苦しめられ、時に絶望しながらも自分と闘い続け、臨終の床で「ハッピーっ」と言い遺した妻の闘病記。	2005	○
257	膵臓がん			い	イヌズカ クミコ 犬塚久美子	チチ カゼ そして父は風になった	近代文藝社		1994	○
258				か	カスガ ユキコ 春日幸子	ユメ ティディベアがはこんだ夢	講談社	「親切な方へ。ガンで亡くなった父の代わりにこのぬいぐるみに旅をさせてあげてください。」と書かれた手紙を持って、ティディベアのマックの世界旅行は始まりました。99年刊の単行本に2002年までのことを加筆修正し収録。	2002	○
259					鎌田英治	最善は尽くされたか	工文社		1999	○
260				く	クロダ キヨシ 黒田清	ジョウズ ガンと上手につきあいなはれ	徳間書店	体内に巣食うガン細胞にユーモラスに語りかけ、なだめ、ときに罵りながら「上手につきあい」続けた、感動のドキュメント。1999年11月から2000年6月まで『アサヒ芸能』に連載されたものを中心にまとめる。	2000	○
261				こ	コガ ジュンコ 古賀順子	オボ 『覚えていてくれよ』 父・健太郎の尊厳死	健友館	日本を代表する生理学者として日本尊厳死協会の設立に力をつけた高木健太郎氏が、ガンに冒され自らも尊厳死を選びとるまでを描いたドキュメント。	1993	○
262				し	ショウノ コ 庄野ひろ子	アイ 愛すれば告知せず	小学館	私たちには、死をお互いの間に挟んで笑いながら暮らせる自信はない。父に最後まで希望を持って病気と闘ってもらうため「非告知」を選択した著者が綴る、感動的家族愛の記録。	1999	○

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館		
263	肝臓・胆のう・膵臓	膵臓がん		た	タカハシ エツシ 高橋悦史 タカハシ ミツヨ 高橋光代	ゆびきりげんまん ガンで逝った夫と妻の“恩愛の記”	主婦と生活社	すい臓ガンであることを自ら公表し、人間の尊厳を問いかける壮絶な闘病生活を送った夫の姿を、妻の目から綴る。家族や友人にあてた手紙と、本人によるガン闘病日記も併せて収録	1996	○		
264				と	トリノウミアキヨ 鳥海昭子	語り部歌人 鳥海昭子のほんのり入院記	本の泉社	膵臓十二指腸切除にいたる入院は著者にとって最初の、断崖に追いつめられた状況であった。心の、肉体の、内観を通して、生きる姿勢をただしてみたいという思いで書き始めた闘病エッセイ。	2003	○		
265						ナカジマ アズサ 中島梓	ガン病棟のピーターラビット	ポプラ文庫		2008	○	
266						ナカジマ アズサ 中島梓	転移	朝日新聞出版	2009年5月26日、ガンのため56歳の生涯を閉じた中島梓=栗本薫。作家であり、主婦であり、母であった彼女が、2008年9月から2009年5月17日、意識を失う直前まで書き続けた闘病日記。	2009	○	
267					な	ナカムラ ヒロコ 中村浩子	ホスピスが私に残された唯一の道 愛する人を看取って	海鳥社	膵臓がんでの手術、再発、転移…そしてホスピスでの最期。最愛のひととの死別の痛みの中から、悲しみを分かち合う遺族の自助サークル発会への日々を綴る。	2000	○	
268						ナベシマ ユウジ 鍋島祐次	医師が患者になるということ	新風舎		2007	○	
269					は	ハタエノブコ 波多江伸子	モルヒネはシャーベットで 取った死	海鳥社	モルヒネのシャーベットは甘くておいしい痛みどめだった。母のすい臓がんの発症から死までの5か月間、「家で死ぬということ」について考えた著者による“優しい死”のすすめ。1992年刊の再刊。	1995	○	
270			肝臓・胆のう・膵臓	膵臓がん		み	ミハラ ミズヨ 三原瑞代	ふたりの交換日記は9月22日のたっちゃんの番で終わった	日本テレビ	たっちゃんは、涙を流して、「ごめんな」って、「ごめんな」って謝り続ける。謝る必要なんかないのに…。夫がガンに侵されたそのとき、交換日記は始まった。日本テレビ系『バラ色の珍生』で話題を読んだ自主制作本の再刊。	2001	○
271							ミヤワキ ジュンジ 宮脇純治	余命を知った社長の<超泣き笑い>経営日誌	明日香出版社	「長くてあと半年です」48歳の春の日の突然のガン宣告。そのとき人は何を考え、どう行動するのか。「うめきとため息」を笑顔につつまながら、経営の先頭にたちつづけた「バルポート」社長の手記。	2000	○
272		や			ヤマモト コ 山本れい子 ヤマモト ヨシキ 山本良樹	七平ガンとかく闘えり	ベストセラーズ	ガン、そして再発。刻々と忍びよる死に、目をそむけることなく立ち向かった山本七平。冷静なる「評論家」の仮面を脱ぎ捨てて「死」の威力と闘う様に、妻と息子はその人の真実の姿を見た。	1994	○		

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
273				よ	ヨコヤマ クニヒコ 横山邦彦	ある日突然、末期癌と知って	碧天舎		2004	○
274				ら	ランディパウ シュ・ジェフ リーザス	サイゴ ジュギョウ 最後の授業 ぼくの命があるうちに	ランダムハウス 講談社	2007年9月18日、カーネギーメロン大学教授ランディ・パウシュが「最後の授業」を行った。癌により余命半年足らずと宣告をされた彼が残したメッセージとは。講義のキーワードをまとめた記録。DVD付き版も同時刊行。	2008	○
275				う	ウエダ ケンイチ 上田謙一	ケイコ ニッキ 敬子の日記	碧天舎		2003	○
276				く	クマガイ サチコ 熊谷幸子	いのちの限りを カギ ニジウ 二重がんを超えて	海竜社	* 子宮がん	1988	○
277				こ	コサカ タダオ 小坂忠雄	ガンと仲良く生き延びようよ	文芸社		2008	○
278	泌尿器	腎臓がん		こ	小西博之	コニタンの闘病日記	太陽エージェンシー		2005	×
279				た	タケダ ヒデオ 武田秀夫	いつのまにか朝日が アサヒ 癌という経験	現代書館	ほんとうにぼくは、遠からず死ぬのだろうか…。癌の発病、そして入院。死の可能性に直面した時にどんなことを思い、どのように自らを支えようとしたかを、自らの体験から綴る。	1996	○
280				た	タニムラ ミツオ 谷村光夫	ガン・脳出血闘病記	日本図書刊行会	ガンを確実に治す薬や治療法は未だないが、ガンを撲滅する方法はある。身体の内側から生命力を創り出し、ガン細胞を撲滅させる方法を紹介する。	1998	○
281				は	ハチヤ アキコ 蜂谷章子 ハチヤ タカシ 蜂谷隆	ガンと道づれ	明石書店		1992	○
282				ひ	ヒノ ケイゾウ 日野啓三	ダンガイ トシ 断崖の年	中央公論社		1992	○
283				ほ	ホソイ ジュン 細井順	死をおそれないで生きる がんになっ たホスピス医の人生論ノート	いのちのこ とば社	「死さえも人生の一部である」著者自身のがん患者としての体験とホスピス医としての経験をふまえて、豊かな生き方、納得した終わり方について考えた人生論ノート。	2007	○
284			○	た	タカハシ ヤスヨ 高橋穩世	シンク 真紅のバラを37本	日本看護協会 出版会	厚い胸のたくましい夫に、太陽のように輝く息子。二人の家族を、癌によって失った女性の手記。昭和58年新声社刊の新装版。* 顎下腺腫瘍	2001	○

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
285	泌尿器	膀胱がん		あ	あんどうただすけ	さらば ^{ニシユウトウ} 西病棟	文芸社		2007	○
286			す	スギウラ アキヨシ 杉浦昭義	イシヤ ^{ダイヨウジョウ} 医者の大養生	講談社出版 サービスセン ター	「医者の不養生」なんて誰が言った？ 自らガンを克服した医師が贈る、読んで笑って健康になる面白エッセイ。ガンとの奮闘、診察室のウラ話、好奇心いっぱいの旅行記などをユニークな筆致で描いた42篇を収録。	1997	○	
287			た	タケミットオル 武満徹	サイレント・ガーデン ^{タイン ホウコク} 滞院報告・キャ ロテインの祭典 ^{サイテン}	新潮社	世界的な作曲家タケミツが四カ月あまりにわたって書き続けた病床日記「滞院報告」と、並行して書かれた絵入りの51品のレシピ「キャロテインの祭典」を手描きのままカラーで収録。	1999	○	
288			や	ヤマナカ ヒサシ 山中恒	オレは ^{ヨウキ} 陽気ながん患者 ^{カンジャ} ^{シンキンコウソク} 心筋梗塞も やったぜ!	風媒社	これまでの医師对患者の概念や図式を壊して、病気をはさんで医師と患者が人間らしい関係を修復していくには？ 自らの膀胱がんと心筋梗塞の入院体験をもとに、その手がかりを探る療養エッセイ。95年ベストセラーズ刊の増補。	2000	○	
289			よ	ヨシカワ ユウイチ 吉川勇一	いい人は ^{ヒト} ガンになる	KSS出版	タバコ、酒、食べ物、公共機関、生命保険、障害者手帳、妻、親きょうだい…。「闘病」を通して見えてくる、ガンとの爽快な付き合い。自らの体験を通して、ガンと共にある暮らしを語る。* 胃がん	1999	○	
290				い	イシ ヒロミツ 石弘光	ガン ^オ 癌を追って—ある ^{キチョウ トウビョウ タイケン} 貴重な闘病体験	中公新書ラクレ	父親と同じ前立腺癌が発見され、全摘出手術を受けた著者が、執刀医との遣り取りから家族との交流まで、経済学者の厳正な目と温かい人間観察を併せ、あますところなく記す。	2010	○
291					キクチ ヨシオ 菊池良男	ツマ ^{ハザマ} 妻とがんと狭間で	新風舎		2007	○
292				き	キジマ キヨコ 木島喜世子	ワタクシ ^{キジマノリオ} ^{タタカ} ^{ガン オ} 私と木島則夫の闘い ^{ニチ} 癌と老いとの 2500日	リム出版	2500日に及ぶ夫の病との闘い。そして、安楽地だったはずの老人ホームへの怒り。NHKのアナウンサーをふりだしに、政治家としても活躍した木島則夫と夫人が、誰もが抱えなければならない問題を痛切に訴える。	1991	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
293	泌尿器	前立腺がん		く	クロカワ ノブユキ 黒川宣之	タジュウ ヨクフク タイケンテキ テリョウガク 多重がんを克服して 体験的治療学	金曜日	著者の前立腺がん、大腸がん、胃がんの治療体験を中心に、がん医療の現状を取り上げる。貴重な「用心と安心のガイドブック」。『週刊金曜日』に連載された「多重がんに見舞われて 体験的治療学」に加筆して単行本化。* 胃がん、大腸がん	2006	○
294			こ	コシロ オサム 胡代哉	トウビョウ カンジャ シンリ ジジョウ 闘病患者の心理事情	近代文芸社		1996	○	
295			さ	ヒフミ さかい一二三	ガンは怖かった 早期発見の大切さ	文芸社	男性をやめるか、人間をやめるか、究極の二者択一を迫られる! 前立腺がんを克服した著者の貴重な記録。がんの早期発見と闘病のノウハウについて、豊富な資料をもとに、適切なアドバイスを提供する。	2008	○	
296			し	シマザキ ヤスヒコ 島崎保彦	アツという間に、消えちゃった。ガン患者が書いた「切らずに治す」重粒子線治療	K&Kプレス	前立腺ガンを患った著者が体験した「切らずに治す」重粒子線ガン治療。重粒子線って何? 切らずにガンが治るって、本当なの? などよく聞かれることについて、医学やガン治療の知識のない患者の立場からまとめる。	2005	○	
297			し	シマザキ ヤスヒコ 島崎保彦	僕は生きるぞ、生き抜くぞ! ガン患者が書いた重粒子線治療、その後、3年	K&Kプレス	前立腺ガンの患者が、高度先進の重粒子線治療を受けて、その後3年。その「Quality of life」は、どうだったのか? ガン治療後の本当の様子を綴った、患者本人による実録。	2007	○	
298	前立腺がん	前立腺がん		す	スギハラ テルオ 杉原輝雄	ノコ 残された生命をいかに生きるか	主婦と生活社	1997年暮れにガン宣告を受けながらも、手術を拒否し、ツアープロとして勝利へのあくなき執念を見せ闘う男・杉原輝雄。そのゴルフ哲学、そして残された人生や周囲の人々への思いを込めて綴られた本。	1998	○
299			た	タカガキ チュウイチロウ 高垣忠一郎	ガン カカ セイ シ フ 癌を抱えてガンガーへ 性と死の不安と向き合う	三学出版	癌を抱えて、性や死の不安と向き合う。それは「インドの旅」と同様、僕の「異界」への旅。癌と向き合い、体験したことや考えたことを綴る。	2002	○	
300			つ	ツルオカ シンイチ 鶴岡信一	ゼンリツセン ガン ヨクフク 前立腺癌を克服して	善本社		2005	○	
301			+	ハーバート・クレイマー ケイ・クレイマー	シ ジュンビ キョウイク フサイ タイ 死への準備教育 クレイマー夫妻の対話	読売新聞社	67歳の広告マン、ハーブは、前立腺ガンであと1年の命と宣告される。セラピストの妻と、生と死の意味、愛、性について語り合ううちに、次第に希望と安らぎを持つようになる。死を見つめる熟年夫妻の心の交信の記録。	1995	○	

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館	
302	泌尿器			は	ハーバート・クレイマー ケイ・クレイマー	死への準備教育 <small>ジュンビ キョウイク</small>	読売新聞社		1996	○	
303			み	ミクニリュウザ 三國隆三	道づれ賛歌 がんの闘病でまなぶ <small>ミチ サンカ トウビョウ</small>	展望社	医者がさじを投げたがん患者が生還した。著者の前立腺がん闘病記などを交えて、治す力、癒す心をさぐる。太く、長く「セカンドライフ」を生きるための最新情報つき健康ガイド。	2005	○		
304			や	ヤマノウチトシオ 山内利夫	キツガン 拮癌	論創社		2003	○		
305			よ	ヨネナガ クニオ 米長邦雄	ガン ノートー米長流 前立腺癌への最善手 <small>ガン ヨネナガリュウ ゼンリツセンガン サイ ゼンシュ</small>	ワニブックスPLUS新書	2008年春、前立腺癌と診断された。手術か、放射線療法か、ホルモン療法か。長考の末に永世棋聖が選んだ最善手とは?「男の命」から尿漏れの心配まで癌との戦いを赤裸々に書き尽くす。	2009	○		
306			精巣がん	え	エグチ ヨシコ 枝口芳子	ラフラ24歳の遺言 あるラッパーの生涯 <small>サイ ユイゴン ショウ</small>	ポプラ社	ラフラ・ジャクソン。彼が遺したものは、CD3枚、ライムを書いたノート3冊、それに多くの絵。日本人の母親とアフリカン・アメリカンの父親、二つの血を駆け抜けたラッパーの鮮やかな人生の記録。	2001	○	
307	な	ナガタ マサカズ 永田雅一		タマトリ モノガタリ 玉取物語	ベネッセ		1997	○			
308	泌尿器	精巣がん		ば	バチ	難治性精巣腫瘍闘病記	ホンニナル出版		2008	×	
309		精巣がん (胚細胞腫瘍)	○	さ	サイカワ タカシミ 西川孝純	がんからの生還 告知から一年、闘病レポート <small>セイカン ヨクチ イチネン トウビョウ</small>	朝日ソノラマ	政治記者の激務をこなすなか、癌を告知され、リンパ節腫大の摘出手術、検査入院、化学療法、がんセンター入院と、本人も家族も大わらわの一年を過ごし、小康を取り戻した著者の克明な闘病記。* 胚細胞腫瘍	1996	○	
310		睾丸腫瘍		○	い	イワキトシユキ 岩城世幸	あきらめるのはまだ早い <small>ハヤ</small>	ミッドナイト・プレス		1991	○
311				○	う	ウエノハジメ 上野創	がんと向き合っ <small>ム ア</small>	晶文社	26歳の新聞記者が突然ガンの告知を受けた。直に左睾丸の切除の手術を受けたが、ガンは肺全体に転移していた。心配なのは恋人のこと。ところが彼女は、満面の笑顔で言ったのだった。「結婚しよう」と。新聞連載を単行本化。	2002	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
312	女性	乳がん		あ	アグネス・チャン	トウキョウ 東京タワーがピンクに染まった日 を生きる	現代人文社	芸能、大学教授、ボランティアなど多方面で活躍するアグネス・チャンが、自身の乳がんの闘病体験から学んだ様々なことを綴り、ピンクリボン運動の意義を訴える。	2008	○
313				い	市井ノリ子	ニュウ 乳がんのうた	保健同人社		1990	○
314				い	イデアフォー	サイハツゴ 再発後を生きる	三省堂	乳房再建手術のこと、恋もできるよということ、自分自身がまだあきらめていないということ…。死ぬ瞬間まで精一杯生きていたい！再発後を生きる21人の乳がん患者の実名手記	2003	○
315				い	井手真知子	キョウ ゲンキ 今日も元気で！ 看護婦・母乳がん患者	北水	車いす生活を経験した少女は看護婦になる夢をかなえた。しかし待っていたのは、夫の皮膚ガン、母の腎ガン、そして自らの乳ガン…。それでも太陽に向かうひまわりのように前向きに生きる著者のエッセイ。	2001	○
316				い	伊藤敏子	ニュウ ゼンテキ シュジュツ 乳ガン全摘手術 ドキュメント	健友館	突然襲うガン、中でも乳ガンは女性の生き甲斐をも奪いかねない恐怖の一撃である。乳ガンに襲われ、精神的葛藤の中で生きる道を探り当てた女性の姿を描く。	2000	○
317				い	岩松久保	ウラギ 裏切られたガン患者たち	五月書房	末期ガン患者は病院に見捨てられてしまうのか。ガン治療で医療機関に入院した人々の声をもとに医療現場の実態を物語風に綴り、医療現場改善のための問題提起を行う。* 転移性皮膚がん(鎧状がん)	1999	○
318				い	岩松久保	ガン患者が病院から追われるとき	主婦の友社	ガンで入院した病院から退院を強制される、そんなことが許されるだろうか。しかし著者の妻は、臓器移植の美名のもとに、病院を追われた。日本の病院と患者との間にくすぶる問題を提起したドキュメント。* 転移性皮膚がん(鎧状がん)	1994	○
319					ウエハラ クミコ 上原久美子 ウエハラ カズハル 上原一治	オド 踊りながら私はいこう ホスピスから の伝言	南方新社	「鹿児島ホスピスを考える会」の発起人としてホスピスの重要性を伝え続けた著者。自らもがんを患い、2度の再発を経て、ホスピスで静かな最期を迎えた。ひとつの選択肢であるホスピスのすばらしさを残された手記が語る。	2002	○

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
320	女性	乳がん		う	ウチダ エイコ ジョ 内田絵子と女 セイ イリウ カンガ 性の医療を考 える会	おっぱいが ^{フタ} 二つほしい 私が ^{ワタクシ エラ} 選ぶ乳 房 ^{チブサ サイケン} 再建	北水	夫の仕事に伴ってシンガポールに滞在していた時、乳がん摘出手術、5カ月にわたる抗がん剤治療、乳房のふくらみ・乳輪・乳頭をつける乳房再建手術を体験した女性を中心となって、乳房再建手術についての情報を提供する。	2001	○
321				エモン 絵門ゆう子	絵門ゆう子の ^コ がんと ^{ニッキ} ゆっくり日記	朝日新聞社	時にゆっくり、時にいそがしく、そしていつもニッコリ。今日を生き、明日を信じ、命尽きる時まで、がん患者とその家族のために全力でつづり続けた命のメッセージ。『朝日新聞』東京版連載の単行本化。	2006	○	
322				エモン 絵門ゆう子	がんでも私は不思議に ^{ワタシ フンギ} 元気 ^{ゲンキ}	新潮社	「がんの全身転移」を告白し、私の生活は一変した。日々忙しく駆け回るなか綴った自身の病状、医療の実態そして患者の本音とは。2003年刊「がんと一緒にゆっくりと」に次ぐ第2弾。再び全てを語ります。	2005	○	
323				エモン 絵門ゆう子	がんと一緒に ^{イツショ} ゆっくりと あらゆる ^{リョ} 療 ^{ウホウ} 法を ^{ホウ} さまよって	新潮社	気功・温灸・食事療法から先端医学まで、全身のがんを治そうと手当たり次第に試して分かったことは-。元NHKアナウンサー・池田裕子が綴る、恐怖、涙、そして笑いが詰まった元気になる闘病記。	2003	○	
324					エリザ・セグレ イヴ	天国なんか待たせておけ！ わたし の ^{ニユウ} 乳 ^{ニッキ} がん日記	三田出版会	離婚、2人の子供、恋人、ライターとしての野心と悩み、パーティ…そして乳がん向き合ったロンドンの日々を綴る。	1997	○
325				お	オオゾラ マユミ 大空真弓	オオゾラ マユミ タジュウ 大空真弓、「多重がん」撃退中！ 乳 がん ^イ 胃 ^{ショクドウ} がん食道がん	宝島社	乳がんの手術から5年、転移ではなく胃がん発症、続いて食道がんも…。女優・大空真弓は「モグラたたき」のようにがんを先手で撃退してきた。「こんな患者みたことない」と医者も驚く多重がん患者・大空真弓の戦い！ *胃がん、食道がん	2005	○
326				お	オオツノリコ 大津典子	ニュー 乳がんは女たちをつなぐ 京都から セカイ 世界へ	藤原書店	それは京都の小さな乳がんクリニックから始まった-。自ら乳がんの温存手術を受け、同病の友の支えによって生きる力を取り戻した著者が、乳がんを共有する中でお互いに心を開き、絆を結び直していく女たちの姿を描く。	2006	○
327		オオハラ 大原まゆ	おっぱいの ^{ウタ} 詩 21歳の私が、 ^{サイ} どうして ニュー 乳 ^{ワタシ} がん ^{ニユウ} に?	講談社	21歳の若さで乳がんになった女性の闘病記。10年生存率75パーセント、だけど私はけっこう幸せ！「楽しいことはしっかり楽しみ、悲しいことには慣れる」の精神で免疫カアップ!	2005	○			

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館	
328	女性	乳がん			オグラツネコ 小倉恒子	あなただっ ^{イッショ} て「がん」と一緒に ^イ 生きる ^イ れる 自らも患者である ^{ミズカ カンジャ} 医師に ^{イシ} 学ぶ ^{マナ} 「がん」に ^マ 負けない ^イ 生き方 ^{カタ}	KAWADE夢新書(河出書房新社)		2002	○	
329					オグラツネコ 小倉恒子	ウィル ^{ウィル} ー ^{ネム} 眠り ^{マエ} ゆく前に	ブックマン社	がんと闘い続けて19年。再々発、そして全身20カ所以上の転移。けれど負けず嫌いな私は強く生きる。仕事のために。我が子のために…。生きる勇気が湧いてくるノンフィクション・メッセージ。	2006	○	
330					オグラツネコ 小倉恒子	コフ ^{コフ} 怖 ^イ がらないで生きようよ ^{キョウセ} がんと共生 ^イ する ^イ 医師の ^イ ポジティブ・ライフ	講談社	乳がん手術、離婚、そして再発、転移…。乳がんになってからの15年、がんと無理に闘わず、かといって逃げもせず、自然体で生きてきた著者。医師ならではの抗がん剤副作用対策、代替療法、暮らしの工夫の数々も語る。	2002	○	
331					お	オグラツネコ 小倉恒子	ジョイ ^{ジョイ} ニュウ ^{ニュウ} 女医が乳がんになったとき 34歳。私 ^{サイ} は ^{ワタ} 病に侵された。でも、 ^{クシ} 負け ^{ヤマイ} な ^オ かつた。	ぶんか社文庫		2005	○
332						オグラツネコ 小倉恒子	ニュウ ^{ニュウ} ジョイ ^{ジョイ} オク ^{オク} ニュウ ^{ニュウ} サイハツ ^{サイハツ} 乳がんの女医が贈る乳がんが再発し た ^{ヒト} 人の ^{アカ} 明るい ^{ショホウセン} 処方箋	主婦の友社	長年、乳がん向き合ってきた女医が、乳がんの治療法や、精神的にタフな人間になれる方法、全身転移という状態でも元気に、毎日を楽しく送る秘訣などを語る。ヘア・メイクの秘密プロセスも紹介。	2009	○
333					か	かえる	かえるノート ^{ニュウ} 乳がん ^{ワタシ} になって ^{エラ} 私が選 ^{ミチ} んだ道	知玄社		2007	○
334							キンモトヒデオ 岸本英雄	トウガン ^{トウガン} ホウロウキ ^{ホウロウキ} 闘癌放浪記	近代文芸社	ホスピス、そこは合法的安楽死施設か、嬢捨山か。妻への癌の宣告、そして転移。名医の噂、民間療法に翻弄されながら、ただ妻の完治を祈った夫の真摯な記録。	2004
335				き	キダテレイコ 木立玲子	パリの ^{ニホン} おっぱい ^{ニホン} 日本のおっぱい ^{ガン} ガン 治療 ^{チリョウ} 先進 ^{センシン} 国 ^{コク} での ^{タイケン} 体験 ^{ケン} から	集英社be文庫		2003	○	

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館	
336	女性	乳がん			キハラ ブイチ 木原武一	シボウリツヒヤク 死亡率百パーセントを生きる ある愛 イ シ キロク と死の記録	新潮社	乳癌の発病、余命3か月の宣告…。しかし、妻はホスピスから奇跡的に退院し、濃密な3年を生きて、逝った。生の歓びと死への怖れ。克明に描かれた、ある夫婦の10年間の記録。	2000	○	
337				さ	さかいひろこ	おっぱいがたいへん!! 乳がん治療日記 キ	日本放送出版協会	乳がん手術を受け、現在もホルモン療法真っ最中の漫画家が、乳がん告知から入院・手術・退院、放射線治療、ホルモン療法まで、自身の経験を綴ったまんが治療日記。乳がん情報も多数収載。	2007	○	
338					サハラ ヨウコ 佐原蓉子 サハラ リュウシ 佐原竜誌	カンジャ 患者からのカルテ	エミール社・ルック		1995	○	
339					シオザワ トキ 塩沢とき	がん人生 ジンセイ	データハウス	* 舌がん	1992	○	
340					シノハラ アツコ 篠原敦子	その夏、乳房を切る めぐり逢った死 シセイカン 生観	創栄出版	右胸から腋の下にかけて、電光石火のごとく散る、鋭い痛みを覚えた。「悪性です」と告げられ、その場で手術日が決められた…。闘病記にとどまらず、21世紀の今を生きる女性を映し出したドキュメンタリー。	2008	○	
341					シバサワ ナオヤ 柴沢真也	カゼ 風のつらら	鳥影社	「長年連れ添った人を家で看取るのは、よほど強い気持ちじゃないとできませんよ」医師にそう言われた夫はしかし、乳ガンから皮膚に転移した末期ガンの妻を在宅で看取った。1組の夫婦の、ある愛の形。	2009	○	
342					じ	ジェラリン・ルーカス	わたしが口紅をつけた理由 クチベニ リュウ	文園社	27歳で「しこり」を見つけ、28歳で乳房切除手術を受けた著者が綴る、パワーの溢れる闘病記。試練に立ち向かうとき、強力な敵と闘うときにもユーモアを忘れず、結婚も仕事も手放さずに猪突猛進する姿に勇気をもらえる一冊。	2006	○
343						スガヌマ テイケン 菅沼定憲	フウフ 夫婦で「がん」を生きる イ	日本評論社	夫は中咽頭がん、妻は乳がん+食道がん。共に「がん」を体験した2人が学んだのは「がん」と仲良くしましょう、ということ。がん細胞という不思議な生物の正体を探りながら考え、がんになったらどうすべきかを提言する。* 咽頭がん	2008	○
344			す	スガヌマ テイケン 菅沼定憲	フウフドウジ 夫婦同時ガンになって ガン患者の サイシン チリョウ ホウコク 最新治療報告 カンジャ	阪急コミュニケーションズ	ガンよ、ありがとう。愛を深めてくれてー。夫婦共に自覚症状がまったくなかったが、夫は中咽頭ガン、妻は乳ガンに。患者の立場からのガン治療最新情報と、同時にガンを宣告された夫婦の愛の記録。* 咽頭がん	2006	○		

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
345	女性	乳がん			スズキアヤコ 鈴木草子	ガン ^{コクチ} 癌告知のあとで なんでもないこと が、こんなにうれしい	探究社 新書 版	斜里大谷幼稚園を創設し自ら園長も務めるが、乳癌の宣告を受け入院。熱心な仏教徒で僧籍も持つ著者が、死の間際まで書き続けた、自身にまつわるエピソードや数々の詩を収録。1989年刊の新装改訂版。	2000	○
346			せ	セキグチレイコ 関口礼子	シ 知っておきたい乳癌 ^{ニューガン}	リベルタ出版	年々、増え続ける乳癌患者。ある日突然、乳癌罹患を告げられたら、仕事は？ 家庭は？ 入院費用は？ 「男だから」といって乳癌のことを知らずに済ませるわけには行かなくなった。いざというとき慌てふためかないための一冊。	2007	○	
347				タカハン 高橋フミコ	ぽっかり ^{アナ} 穴のあいた胸で考えた わた ^{ムネ} ^{カンガ} しの乳がん ^{ニュー} 体験記 ^{タイケンキ}	パジリコ株式 会社	40代、独身、パフォーマンス・アーティスト。「オンナらしさ」とは無縁、ピンクリボンキャンペーンにはなじみず、乳がんで解放感を味わうわたしって、どうよ？ そんな著者による、トランスジェンダー的がん闘病記。	2006	○	
348				タハラ セツコ 田原節子	がんだから上手に生きる ^{ジョウズ} ^イ	海竜社	それは悪性の乳がんだったー。余命半年の宣告から奇跡の5年を生きて、今だから言えること。家族、主治医、病院、仲間、すべてに支えられて闘病はできる。希望ある一日一日を、命をかけて生きる著者渾身の愛といのちの記録。	2004	○	
349			た	タムラ 田村まり子・ フタマツ ヒロキ 二松啓紀	ニュー 乳がんの歩きかた ^{アル} ^{ヨメイ} ^イ 余命を生きる50 の物語 ^{モノガタリ}	文理閣	ひとりの女性が末期乳がん診断を受けて4年。未承認薬がくれた新しい人生は、通院治療、家事復帰、ショッピングや夫婦旅行、初孫の誕生へと続いていくー。患者、家族、医療関係者に「人生の質」を考えさせる闘病記。	2007	○	
350				タムラ 田村まり子	わたしは ^{カゼ} 風にのって ^{ニュー} ポレポレ乳がん 闘病記 ^{トウビョウキ}	文理閣	「ポレポレ」とはスワヒリ語で「ゆっくり、のんびり」という意味。どこまで、走れるか、歩けるか…。『京都新聞』連載の闘病記「乳がんつれづれ」「続 乳がんつれづれ」をまとめる。	2006	○	
351				タワラ モエコ 俵萌子	ガン ^{ワタクシ} ^{キョウドウ} ^{セイカツ} 癌と私の共同生活	海竜社	たとえ明日再発しても、今日は今日の夢を生きる。癌と真摯に向き合った一年半にわたるドキュメント。癌が抱えている現代医学の問題点を患者の目から提示する。	1997	○	
352				チ 千葉敦子	ニュー 乳ガン ^マ なんかに敗けられない	文春文庫		1987	○	
353		て TBS「イブニン グ・ファイブ」 編	ヨメイ ^{カゲツ} ^{ハナヨメ} 余命1ヶ月の花嫁	マガジン・ハウ ス	24歳の女性が懸命に生きた「現実」の記録。乳がんと闘い、最後まで人を愛し、人に愛され、人を支え、人に支えられた人生を生き抜いた長島千恵さんの愛といのちのメッセージを紹介。TBSで放送のドキュメンタリーを書籍化。	2007	○			

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
354	女性	乳がん		ど	ドイノフミツ 土居伸光	スマイル ^{ゼツボウ ヨロコ カ ジョセ} 絶望を喜びに変えた女性 ^{イ キロク} の記録	光文社	医者に見放されて、初めて道は開かれた。病院での治療を受けない代わりに、末期ガンという不幸な出来事に押しつぶされることなく、前向きなものへと転換し、最期まで微笑んで逝った妻の闘病記録。	2000	○
355					ドバシコウタツ 土橋弘達	ウィズ・ユー	東洋出版		2006	○
356				な	ナカジマ アズサ 中島 梓	アマゾネスのように	集英社		1992	○
357					ナカハマ ジュンコ 中濱潤子	ニュー ^{ドクターズ ショッピング} 乳ガン医師選択権(ドクターズショッピング)	小学館文庫		2000	○
358				に	ナカモト マサコ 中本雅子	がんから教わる ^{オン} ワンショットセラピー	文芸社	41歳まで超健康だったのに、胸のしこりを発見して世界が一変した。ガンになった時、ガンを敵にしたり屈服するのではなく、闘病の日々を振り返り、名もない花の花びらが一枚だけ残るような、そんな新しい形のガン体験記。	2002	○
359					ニシカワ ナガミキ 西川永幹	ベター・ハーフ	ごま書房	十代で出会い、二十代で結ばれ、三十年間愛を育んだ夫婦の絆は、病魔によっても引き裂かれることはなかった。白血病のため帰らぬ人となった最愛の妻に捧げる思い。* 白血病	1998	○
360					ニシナングオ 仁科滋夫	ツマ ^{ヨメイ} 妻の余命	幻冬舎ルネッサンス(ルネッサンスブックス)		2006	○
361				の	ノグチ ユミコ 野口弓子	おっぱいの涙：乳がん闘病体験記： まんが	ぶんか社		2005	○
362				の	ノシロリツコ 能城律子	ニュー ^{イ チカラ ヨメイ サン} 乳がんが生きる力をくれた「余命三年」の宣告をのりこえ ^{カコク} 苛酷なラリーに ^{モ アイ ユウキ チョウセン} いのちを燃やす愛と勇気と挑戦の人 ^{ジンセイ} 生	宙出版	62歳、しかも両乳房を喪った体でハンドルをにぎり「マスターラリー」で全長9千キロの砂漠と草原を疾走。人生、いつだって「今」がスタートという著者の「生」への賛歌。	1997	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
363	女性	乳がん		は	ハマナカ カズコ 浜中和子	のぞみ ^{ムネ} を胸に	ガリバープロダクツ	すべての人にいつか死はやってくる。だからこそ、一日一日を大切に、最後までのだぞみを胸に持ち続けて生きていこう。乳がん患者にして医者でもある著者が、自らの体験を率直に語る。	2004	○
364					ハラ ヒロコ 原宏子	「死 ^シ の淵 ^{フチ} 」から	新生出版		2008	○
365				ひ	ヒラマツ エリ 平松愛理	ヘヤ 部屋とYシャツと「私の真実 ^{ワタシ シンジツ} 」	集英社be文庫		2004	○
366					ヒロノ ミツコ 広野光子	きつと良くなる ^ヨ 必ず ^{カナラ} 良くなる ^ヨ 多重 ^{タジュウ} が んと ^{タタカ} の闘い ^{キロク} の記録	PHP研究所	乳がん・卵巣がんの二つを病んだ著者の、5年を生き抜いた記録。重篤ながんを病んでも現代の医療と人の持つ自然治癒力を信じて闘病すれば、予後明るく楽しく生きられるという励ましの書。* 卵巣がん	1998	○
367					ヒロノ ミツコ 広野光子	わたしが「がん」になったとき	イーストプレス	* 卵巣がん	1995	○
368					フクヤ アユミ 福谷歩	がんになってきこえた唄 ^{ウタ}	日本文学館		2003	○
369				ふ	フジモト マチコ 藤本真知子	がんingマイウェイ 経験 ^{ケイケン} をプラスに変 えてきた私の闘病Q&A ^カ	同時代社		2007	○
370				ぶ	ブレンダン・ハ ルピン	彼女 ^{カノジョ} が乳がん ^{ニョウ} になって考えた ^{カンガ}	ソニー・マガジ ンズ	ある日突然試練が訪れた。妻が乳がんを宣告されたのだ。それも第4期だという。いったいどうしたらいいのだろうか…。乳がんになった妻とその夫が直面するリアルな心の揺らぎを、あふれるユーモアと涙と笑いで綴るエッセイ。	2003	○
371				ほ	ホリエ 堀江きょうこ	わが乳房 ^{チブサ} を夫 ^{ツマ} に	毎日新聞社		1992	○
372				ほ	ホンダ マユミ 本田麻由美	34歳 ^{サイ} でがんはないよね？ ある ジャーナリストの揺れる心 ^ユ の軌跡 ^{ココロ キセキ}	エビデンス社	「生」に固執して闘う姿は、浅ましいか。乳がん患者として体験した心の叫びを綴る一方で、新聞記者ならではの視点で医療問題を見据え、自らモデルケースとなって「生」を探り続けたノンフィクション。	2008	○
373		マイニチ ホウソ 毎日放送 ウ ヴォイス 「VOICE」編	ずっとママでいたい	双葉社	「ママの病気も、頭の中のガンも、全部なおりますように」乳ガンと闘いながら命がけで次女を出産し、「家族に残された時間」を全力で生きた土江絵美さんが残した家族の尊さを描く真実の物語。	2008	○			

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
374	女性	乳がん		ま	マエダ カズ 前田 和	ガン 癌からのストレス脱却へ 患者として イリョウ ヨウボウ の医療への要望	近代文藝社	病んでも輝きを生み出す「活性化」とは。更に、患者としての医療への要望とは。癌とのつきあい生き生きと。* 卵巣がん	1995	○
375					マツイ マチコ 松井真知子	アメリカで乳がん ^{ニユウ} と生きる ^イ	朝日新聞社	千葉敦子の凄絶な闘病から13年、アメリカのがん治療は大きく変わった。アメリカでがん告知を受けた日本人社会学者が、自らががん医療の最新現場を調べ、死と生と新たな出会いについて考える。末期がん患者の体験的レポート。	2000	○
376				マツ ミドリ 松翠	ヒト 人ごとでいられますか？ 乳癌 ^{ニユウガン}	朱鳥社		2005	○	
377				ミタライ ユミ 御手洗佑美	ガン わたしは幸福(しあわせ)に死 ^{シアワセ} シぬ	主婦の友社	「人は地球の旅人」と言って、53歳で旅立ったチャイナペインター。死の3カ月前から、大学時代からの親友が聞きとったりインタビューしたりしたものを1冊にまとめた。死を真正面から見据え明るく生きて逝った記録。	1995	○	
378				み	ミヤオ シンゴ 宮尾茂子	がんを道連れに13年 ^{ミチズ} いのちを見つ ^{ネン} めて	未来社	再発につぐ再発のなかで、書くことによって自分の死を対象化すると同時に、他者の生と死に近づき寄りそう日々を重ねてきた著者。終末期を人間らしく生きるためにがん患者とその家族はどう生きればよいかを問い直す。	1997	○
379					ミヤタ ミホリ 宮田美乃里	乳がん ^{ニユウ} 私の決めた生き方 ^{ワタクシ} 限りある ^{キメ} 命 ^イ を花のように ^{カタ カギ}	リヨン社	思いもよらない乳がんの宣告。悩んだ末の選択は「治療は受けない」。無理をせず、あるがままの、与えられた命を生きたい。それが私の願い。がん治療をしないって、そんなに悪いことですか？	2003	○
380				む	ムカイ ショウコ 向井承子	たたかいはいのち果てる日まで ^ハ 医 ^ヒ 師 ^シ 中新井邦夫の愛の実践 ^{アイ ジッセン}	エンパワメント研究所	障害者の地域における暮らしを支えるシステムはどうあるべきか。自らの死に至る病をかえりみることもなく、その答を求め続けたひとりの医師の壮絶な生きざまを、同時代を共に生きた人たちの「記憶」を中心に描く。	2007	○
381				む	ムライ クニオ 村井国夫 オトナシ ミキコ 音無美紀子	ツマ ニユウボウ ニユウ 妻の乳房「乳がん」と歩いた二人の ^{アル} 十六年 ^{フタリ}	光文社	16年前に左乳房の摘出手術を受け、過酷な乳がん戦争を生き抜いてきた音無美紀子が、手術方法への悩み、喪失感からのうつ病体験等の事情を、苦楽を共にしてきた夫・村井国夫と共に綴る。	2004	○
382	も	モリシタ マサミ 森下雅美 モリシタ サトミ 森下里美(アン☆ドウ)	ササ ニユウ 支え 乳がんからの生還 ^{セイカン}	講談社	30歳、突然の乳がん宣告。一卵性の双子タレント「アン☆ドウ」の森下雅美が、乳がんの発見、闘病生活、結婚、アン☆ドウの結成から東京進出までを綴る。妹・里美のサポート記も収録。	2008	○			

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
383	女性	乳がん		や	ヤマウチ リカ 山内梨香	がけつぷちナース がんとともに生きる	飛鳥新社	自分が乳がんになるまで、病気は他人事だった…。がんになっても、転移していても、がけつぷちでも、私はこんなに元気で生きている! 乳がん、転移、再発を繰り返しながらも、乗り越えているナースの体験談。	2009	○
384					ヤマグチ マリコ 山口真理子・ アサヒシンブン ニュウ 朝日新聞「乳 がん検診」取 材班	ニュウ 乳がんはなぜ見落とされたのか 「余命半年」の私にできること	朝日新聞社	検診で乳癌を見落とされ、余命半年の告知を受けながら、検診制度の見直しを訴えて歩いた女性の手記と、多数のメディアで取り上げられ、厚生労働省に制度の見直しを決断させた朝日新聞キャンペーン記事から成る一冊。	2004	○
385					ヤマザキ タカコ 山崎多賀子	ナオ ニュウ センゲン 「キレイに治す乳がん」宣言!	光文社	美容ジャーナリストが直面した、乳がんという現実。現代の女性にとってキレイであることがどれほど大きな力を持つか、また最先端の治療のことまで、患者の視点から著者ならではの独自の切り口で紹介する。	2007	○
386					ヤマダイズミ 山田泉	ジュギョウ イチド 「いのちの授業」をもう一度 がん 向き合い、いのちを語り続けて	高文研	国東半島の里山の学校。子どもたちとぶつかりあい、笑い、涙してきた山ちゃんによる「山びこ学校」のアーカイブス。教育行政への、現場からの叫び声ともいえる一冊。11年間書き続けた「保健室日記」ほかをまとめ単行本化。	2007	○
387					ヤマダ クニコ 山田邦子	ダイジョウブ 大丈夫だよ、がんばろう! 私も、乳 がんと闘っています	主婦と生活社	TV収録中に感じた不安、診断を受けるまでの心の葛藤。乳がんに対してどう考え、どう行動したのか。そして、今、改めて思う、感謝と決意とは…。がんになっても自分らしく生きるための、邦ちゃんからの本音メッセージ。	2008	○
388				よ	ヨコウチ ミチヨ 横内美知代	トワ 永遠へ ガンを抱えた母から、まだ幼 い我が子への手紙	ソニーマガジ ンズ	乳ガン発症、乳房摘出、妊娠中の婚約者の失踪、ガン再発の中での出産、ガン再々発…。それでも私は、あなたがいたから生きている。病と闘いながら、ひとりで子育てを続けるシングルマザーの、心からのメッセージと記録。	2005	○
389					四戸由香	ソプラノナース乳がん奮闘記 ~合唱 団の仲間へ~	らくだぶっく(文 庫版)		2008	×
390					リボンの会	ニュウ 乳がんなんかで泣かない 涙を微 笑みに変えるまで	扶桑社	近年増加の一途にある若年性乳がん。若くして乳がんの告知を受け「なぜ自分が?」と運命を呪い、パニックに陥った女性たちが、自分を見つめなおし、とことん納得のいく治療法を探しあて、新しい人生を迎えるまでの感動の手記。	2004	○

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
391	女性	乳がん		わ	ワット隆子	がんからの出発	医学書院	がんとの闘い、あけぼの会の会長としての責務との奮闘、そして妻として母親としての役目を十分に果たせなかったのではというすまなさと葛藤、そして、がん患者から医療従事者、特にナースたちに向けての挑戦的な注文を続けた著者の「格闘記」。	1992	○
392					ワット隆子	ガンと生きる けっしてあきらめないで	あけぼの会		2003	○
393					ワット隆子	私たちは闘う 乳がん再発体験記	あけぼの会		1998	○
394	子宮がん			あ	赤星たみこ	はいッ!ガン ^{ナオ アカボシ} を治した赤星です!! 子宮ガンからの痛快サバイバル日記	扶桑社文庫		2000	○
395					芥真木	子宮ガン…生きるための私の選択	小学館	94年3月、東京医科歯科大学附属病院で2期まで進んだ子宮頸ガンを突然告知される。両親にそれを告げる瞬間、抗ガン剤治療とその副作用、7時間にも及ぶ大手術、術後のさまざまな感染症の苦しみ。闘病生活の全てが収められた。	1995	○
396					渥美雅子	子宮癌のおかげです 女 ^{オンナ} 看護師の全摘57日間の記録	工作舎	即断即決・収支決算付きの「明るい闘病生活マニュアル」。突然のガン宣告から子宮全摘出手術、退院までの闘病生活を、過激に、そしてユーモラス語る。渥美雅子節が炸裂!	2003	○
397				あ	アンリ菅野	女ひとり ^{オンナ} がんと闘う IV期のがんを6か月でふっ飛ばした仰天 ^{ゲツ ト} パワフル闘病記	青春出版社	「えっ、私が、がん!?!」突然の宣告に頼れる家族も彼氏もない。襲いかかる苦痛、果てしない不安。すべてを自分に受け入れて、がん ^{ガン} と闘い抜き、克服した、アンリ菅野の闘病と自分探しの物語。	1999	○
398					石本左智子	末期がん宣告を受けとめて 女性外科医「いっしん」の遺したメッセージ	EPIC	「ちょっとアンラッキーだったけど、ハッピーだったよ」という言葉を遺して、彼女はホスピスから旅立った…。「いっしん」という愛称で、友人たちにこよなく愛された一人の女性外科医の、がん病床からの熱く優しいメッセージ。	2002	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
399	女性	子宮がん		お	オガタマサコ 緒方真子	がんよ、ありがとうがらし 二度の ^{ニド} が ん ^{タイケン} 体験から ^ミ 見えてきたもの	文化出版局	がんは、生を考えるチャンスのひとつ。そこから見えてきたものは、いとおいしい人間模様というたくさんの宝物。一度がんになった人、がんにかかることを恐れている人へ贈る、ユーモアあふれるがん闘病記。* 肝臓がん	2000	○
400			き	キリュウ コ 桐生ゆう子	ハハ ^ワ 母への詫 ^{ジョウ} び状 (ノン・ポシエツ) す べてをし ^{ツク} 尽くした。でも……	祥伝社		1996	○	
401			く	クマガイ サチコ 熊谷幸子	いのちの ^{カギ} 限りを 二重 ^{ニジュウ} がんを ^コ 超えて	海竜社	* 腎臓がん	1988	○	
402			と	トダ カズコ 戸田和子	ワタクシ エンメイ チリョウ 私、延命治療はしません ガン ^{ヨメイコク} で余命 告知 ^チ された妹・智子 ^{イモウト トモコ センタク} の選択	リヨン社	余命告知をされ、抗癌剤治療を拒否し、自分の納得のいく生き方を選択した妹。その闘病生活を支えた姉が「生きる」ことの意味を綴る。「あと3カ月」を自分らしさを模索して貫いた39歳の女性の生き方。	2003	○	
403			に	ニシナ アキコ 仁科明子	いのち ^{キラメ} 煌いて	小学館	俳優の松方弘樹夫人が初めて綴った自分史。少女時代、女優デビューと、世間から非難された松方弘樹との恋、壮絶なる子宮がん闘病…。いまだから語れる秘話を初公開します。	1996	○	
404			ま	シホ ますい志保	アカ ^{チョウチョウ} 赤い蝶々	小学館	夜の世界で成功した銀座ママが、子宮を失って初めて知った本当の自分。虐待、籍だけの夫、美容整形、不倫、暴行…。TBS系「金スマ」でも大反響を呼んだ衝撃の半生、そして凄絶な子宮がん闘病日記。	2004	○	
405			子宮がん		む	ムカイ アキ 向井亜紀	シュウ 16週あなたといた ^{シアフ} 幸せな ^{ジカン} 時間	扶桑社	「わずか4カ月間…。私はたしかに、お母さんだった。」妊娠と同時に告げられた子宮ガン。全摘出手術で我が子も失った向井が、夫・高田延彦とともに闘った日々を綴る命の記。	2001
406			う	ウエハラ カンナ 上原寛奈	エガオ ^{ステキ} 笑顔の素敵なあなたに	文芸社		2003	○	
407			お	オガサワラ ノブユキ 小笠原信之 ツチハシ ナリコ 土橋律子	カンゴフ 看護婦ががんになって	日本評論社	度重なるがん体験を通して一人の若い看護婦が独自の看護観や人生観に到達するまでのプロセスを、小笠原が取材をもとに丹念に綴る。みずからの経験を通して体得した看護論を土橋自身が綴った文章も収録する。	2000	○	

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
408	女性	子宮体がん		く	クワ 久和ひとみ	クワ 久和ひとみ <small>ゼッピツ シキユウ トウビョウ ニ</small> 絶筆 子宮がん闘病116日 <small>ニッキ</small> の日記	小学館	突然の子宮がん宣告、司会をつとめていたニュース番組の降板、想像を絶する辛い闘病の日々…。最後まで生きる希望を捨てずに、死の直前までの自らを綴った116日間の凄絶な「命の記録」。日記をもとにまとめたドキュメント。	2001	○
409				さ	サカイノリコ 堺典子	シキユウ ヒト シキユウ フタ シキユウ 子宮は一つ、子宮がんは二つ 子宮 <small>タイ シュジュツ コウ ザイチリョウ オ</small> 体がん手術と抗がん剤治療を終えて	文芸社	年に一度の人間ドックを欠かさず、子宮ガン検診でも「異常なし」で安心していたのに、なぜ? 二種の子宮ガンのうち、人間ドックなどでは発見されない体ガンで手術を受けた著者が贈る体験記。	2002	○
410				し	シイナミサト 椎名美里	シキユウ ウ 子宮を産んだら	東京経済		1998	○
411				み	ミズカミアキオ 水上明雄	ハナミズキ クズ ハナ ガン イ ツマ 花水木と葛の花 癌で逝った妻との <small>ニヒャクニチ</small> 二百日	東洋出版	日ごと増えるモルヒネは痛みこそ和らげるが妻が妻でなくなっていく。私は思わず凍てつく。妻はどこに行ってしまったかと。闘病記録を著者に委ね、200日間を生き抜いた妻は、どんなことを伝えようと思ったのか。	2006	○
412		子宮肉腫	○	う	ウエダテツ 上田哲	ツマ マエ ガン コクチ 妻よ、お前の癌は告知できない	講談社		1998	○
413	卵巣がん			う	ウエダコウジ 上田孝治	セキシユン 惜春	東京図書出版会	たった1%でも存命の可能性があるのでなら、99%を捨てて1%に全てを託す。癌を知らされず、妻が戦った2000日を描いた小説。	2002	○
414					ウエマツフミエ 植松文江	ジュウヨネン ジツカイ シュジュツ イ ヌ 十四年十回のがん手術を生き抜いて	光文社	子宮の全摘手術を受けて以後、14年にわたる闘病を強いられてきた著者。壮絶な手術、副作用に苦しみながらも、家族の愛に支えられて、常に前向きで生きてきた一人の女性の手記。	2004	○
415				お	オオニシヤスコ 大西康子	フタタ シュワ ツウヤクシャ いのち再び 手話通訳者ががんになって	クリエイツかもがわ	サポートされる身になって、初めてわかることがある。手話通訳活動と高齢世帯援助員(SCS)として活躍していた著者ががんになったとき見えてきた、本当の必要な支援のあり方を綴る。	2006	○
416				か	カワグチミキオ 川口幹夫	サヨコ ツマ ノコ ハナ 小夜子へ 妻が遺した花がたみ	集英社	「パパ、パパより先に逝ってしまうけど、ごめんね」君がいるべきだった年月まであわせて私は生きなければならない。いまだに墓すら建てていない夫が、自らの涙で刻んだ亡き妻への墓碑銘。	1999	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
417	女性	卵巣がん		せ	芹澤義夫編	とうさん魂あずかって	ジャパン通信 情報センター		2007	○
418				た	タケウチ ヒサヨ 竹内尚代	ガンになっても私、セクシィ? 卵巣ガ ン患者発“ふまじめ”のすすめ	パンドラ	ガンになったからといって、仕事も降りない、女も降りない。酒と友だちつき合いはますます盛ん。ふまじめな患者に徹する著者はみずからの性と生にどこまでも真面目な患者である。ガンとの偏見のないつきあい方を語る。	2000	○
419				だ	ダイキ 大樹	シツテキ テンカン 質的転換	碧天舎		2004	○
420				つ	ツカハラ スミエ 塚原純江	ウミ カエ ジョユウ カハラ ナツコ コクチ 海に還る 女優・賀原夏子 ガン告知 から8か月……残された時間を闘い 抜いた女の愛と死	主婦と生活社		1993	○
421					ツムラノフコ 津村昶子	ムスメ 娘とわたし	静岡新聞社		1997	○
422					ハマモト 浜本なおこ	オカヤマ ダイガク ビョウイン ハツ トウビョウ レッシャ 岡山大学病院発、ガン闘病列車	文芸社		2008	○
423					ヒロノミツコ 広野光子	ヨ カナラ ヨ タジュウ きっと良くなる必ず良くなる 多重が んと闘いの記録	PHP研究所	乳がん・卵巣がんの二つを病んだ著者の、5年を生き抜いた記録。重篤ながんを病んでも現代の医療と人の持つ自然治癒力を信じて闘病すれば、予後明るく楽しく生きられるという励ましの書。*乳がん	1998	○
424					ヒロノミツコ 広野光子	わたしが「がん」になったとき	イーストプレス	*乳がん	1995	○
425	卵巣がん		ふ	フジモト カズヨ 藤本和代 ハヤシ マキコ 林榎子	ガンに打ち克つ14通の手紙	山手書房新社		1993	○	
426			ま	マエダ カズ 前田 和	ガンからのストレス脱却へ 患者として の医療への要望	近代文芸社	病んでも輝きを生み出す「活性化」とは。更に、患者としての医療への要望とは。癌とのつきあい生き生きと。*乳がん	1995	○	

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
427				や	ヤナギハラ カズコ 柳原和子	ヒヤクマンカイ エイケツ 百万回の永訣 がん再発日記	中央公論新社	「余命半年」の告知から2年、「死」をみつめて積み重ねた「生」の記録。そして、ふたたび魂の奇蹟は起こった…。生きることの健気さが涙をさそう手記。『中央公論』連載の「残照 がん再発日記」を改題のうえ、加筆・修正。	2005	○
428	女性	絨毛性疾患 (絨毛がん)		お	オクサコ ヤスコ 奥迫康子	マリエ 真利栄ちゃんママがんばってるよ	家の光協会	胎盤のがん「絨毛がん」から、奇蹟的に生還した母の9か月におよぶ闘病の日々…。生後39日で逝った娘へのレクイエムは、がんと壮絶な闘いの記録でもあった。「生」と「死」を真正面から見つめる姿が胸を打つ。	1996	○
429		絨毛性疾患 (絨毛がん)		な	ナガトモ アケミ 長友明美	カミ ウマ シキユウ タカカ フタ 神さま！産ませて 子宮ガンと闘い双 ゴシュッサン ハハ キロク 子出産の母の記録	講談社		1985	○
430		絨毛性疾患 (絨毛膜がん)		ま	マツダイラ カズオ ケイ 松平和夫・慶 コ子	がんに散った！フォトジャーナリスト の夢	文芸社		2004	○
431		悪性絨毛上皮腫		な	ナガミネ リョウサイ 長峯良斉	キセキ ツマ オコ ナノカ イノチ 奇跡よ妻に起これ 7日の命といわれ たガンが治った！	主婦と生活社		1987	○
432		外陰がん	○	た	タジマ ユウコ 但馬裕子	ひかりのなかへ 700日のDIARY	アルタ出版	大学院への復帰を信じ、自らの悪性腫瘍と正面から対峙し、懸命に闘って短く壮絶な生を生きた一人の若い女性の700日の記録。追悼のメッセージも収録する。	2003	○
433			○	あ	アサイ コ 浅井えり子	もういちど二人で走りたい	徳間書店	今年3月、監督であり夫でもあった佐々木功をガンで亡くしたマラソンランナーの著者が自ら綴った哀切の手記。数か月の命と知っての入籍から194日間の闘病生活まで、走り続けた2人の全ドラマ。	1995	○
434			○	え	エイロクスケ 永六輔・ピーコ	よってたかって目の勉強	扶桑社		1990	○
435	皮膚	悪性黒色腫	○	さ	サトウケイコ 佐藤桂子	ヨア 夜明けのE・Tごっこ がん死こうちゃ んの場合	東京経済		1999	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
436			○	ぴ	ピーコ	カタメ ウシナ ミ 片目を失って見えてきたもの	サンマーク出版	なんとも思っていなかったまわりのものが、いま、とてもいとおしい…。ガンで左目を摘出した著者が、あらためてかみしめた友情のありがたさ、過ぎていった日々とこれからの毎日の大切さを綴る。	1999	○
437		悪性黒色腫 (鼻腔悪性黒色腫)	○	や	ヤマシタ タダオ 山下忠男	キセキ 奇跡のトライ	池田出版		1999	○
438	骨・筋肉	悪性骨腫瘍 (骨肉腫)	○	い	イムラ カズキヨ 井村和清	アスカ 飛鳥へそしてまだ見ぬ子へ 若き医師が死の直前まで綴った愛の手記	祥伝社・新装版	死にたくない。生まれてくる子の顔を見たい…。不治の病に冒された青年医師が、最期まで生きる勇気と優しさを失わず、わが子と妻、両親たちに向けて綴った遺稿集。夫人による新原稿を加えた1980年刊の新装版。	2005	○
439			○	お	オオシマ コ 大島みち子 コウノ マコト 河野貴	アイ シ 愛と死をみつめて ある純愛の記録	大和書房新版		2006	○
440			○		オオシマ コ 大島みち子	ワカ 若きいのちの日記 愛と死の記録	大和書房新版	病院の外に、健康な日を3日ください…。死の間際まで書き記した心の軌跡! 2004年12月刊「愛と死をみつめて」のミコが恋人には言えなかった心の内を切々と綴る! 新版。	2005	○
441			○	き	キノレイコ 紀礼子	イノチ モ 生命燃えつきるとも ガンと闘った姉と妹の八か月	時事通信社		1987	○
442			○	く	クシマ マサツグ 串間政次	ツマ コ ササ テ クシマズファイト 妻と子に捧げる、父としての闘いの記録	体育とスポーツ出版社	「生きるため」に左脚を切断した格闘家・串間政次が、今、家族への思いを胸に自身の存在の証としてリングに上がる! 真の強者たちをも驚嘆、そして感動させる闘いがそこにはあった…。	2004	○
443	○	る	ルーシー・グレアリー	カオ ナク 顔を失くして『私』を見つけた	徳間書店	本当の顔とは何だろう? 美醜は一体、誰が決めるのだろうか? どうすれば「本当の自分」に辿り着けるのだろうか? 病気で顔を損傷した少女が、醜い顔を持つ意味を問い続け、自分自身と失った顔を取り戻すまでの感動の軌跡。	1998	○		
444	○	や	ヤダソウイチ 矢田壮一	イ 生きて迷わず死して悔やまず	講談社		1992	○		
445				横井千香子	摩優の樹—いつか天の川で—	風葉社	* 嗅神経芽細胞腫	2003	○	

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
446	骨・筋肉	横紋筋肉腫		よ	ヨコヤマ ユミカ 横山友美佳	アシタ イ ジュウハツサイ 明日もまた生きていこう 十八歳でが ん宣告を受けた私	マガジンハウ ス	全日本合宿参加の連絡を受けたまさにその日、がんと闘いを始めた高校生・横山友美佳。発病するまでの18年間と、闘病しつつ大学受験やアルバイトなどの新たな経験を重ね、夢を追い求め続けてきた3年間の日々を綴る。	2008	○
447		軟部肉腫	○	ふ	フクヨ ユウゾウ 福与裕造	ハラ タコ ス 腹に蛸が棲みついた	新風舎文庫		2007	○
448		軟部肉腫 (骨軟部腫瘍)	○	の	ノグチ ユキヒロ 野口幸洋	チ オチ ヒトツブ ムギ ワカ タイガクイ 地に落ちよ、一粒の麦 若き大学医 師のガン闘病記	産経新聞社	医師として、父として、夫として私はガンと闘いつづける。骨軟部の肉腫から生還した若き総合診療医の愛と涙の闘病700日の記録。ガン患者の立場から医療を省みた医師の胸中に去来するのは?	2001	○
449		軟部肉腫 (繊維肉腫)	○	あ	アノウ カツヒコ 麻生勝彦	シ 死までの着陸航路	日本図書刊行 会		1997	○
450		軟部肉腫 (平滑筋肉腫)	○	う	ウメハラ タケシ 梅原猛	ミズウミ デンセツ ガカ ミツハシ セツコ アイ シ 湖の伝説 画家三橋節子の愛と死	新潮社		1980	○
451					○	よ	ヨシノ 吉野ゆりえ	いのちのダンス 舞姫の選択	河出書房新社	元ミス日本で世界的トップダンサーの彼女を襲った「忘れられたガン」。そのとき彼女は、命をかけて「ブラインドダンス」を立ち上げた。平滑筋肉腫を抱えながらも、視覚障害者にダンスを教えている著者が、その生き様を綴る。
452	骨・筋肉	結合組織腫瘍	○	く	クリステル ツァヘルト イザベル ツァ ヘルト	テンゴク ア わたしの天国でまた会いましょうね	集英社	どこまでも強く明るく生き抜いた青春。16歳の少女が悪性腫瘍と闘った1年間と尊厳死を選ぶまでの日々。ひとりの自立した娘として、家族に死に対する心がまえをさせた少女と母の1年間を日記と手紙で綴る。	1994	○
453		骨巨細胞腫	○	こ	コボリ ミチコ 小堀美智子	ウツ アル 美しく歩きたい 新たな義足ととも に	自費出版	不可能と思えることへの挑戦。失った左足を未来への希望に変えて…。左足切断という運命にも持ち前の明るさで立ち向かい、義足はハンディではないという生き様と人々へのメッセージを綴る。	2005	○
454		大腿腫瘍	○	た	カタツキ ヒロシ 高槻博	カタアシ ソウシツ キ 片足喪失の記 たとえ“ガン”であって も	柘植書房	働きざかりの男を突然ガンが襲った。肺への転移をおそれて、左足離断。死のおそれ、大手術への逡巡と決断、気の遠くなるようになりハビリ訓練。発症から手術、社会復帰までの心の動きを綴った感動の記録。	1995	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
455	血液・リンパ(白血病)	白血病		あ	アカツカ ノリコ 赤塚祝子	ムキンビョウシツ ヒト 無菌病室の人びと	集英社		1993	○
456					アゲイシ カズコ 上石和子	イ シズ ムスコ タカカ 生きてほしい、静かなる息子の闘い	ディーディーエヌ	突然襲った不治の病。病床にあっても、笑顔とユーモアを絶やさなかった学。傍らで見守り、励ましつづけた母親から息子への鎮魂歌。詳細な病状日記、病床から家族友人と交換したメールを収録する。	2004	○
457					アズミ マサコ 安積政子 フジヤス ヒデキ 藤保秀樹	エイエン アイ チカ 永遠の愛を誓って	宝島文庫		1998	○
458					アンドウショウゴ・ショウ 安藤庄吾・聖子	ぬくもり	清風堂書店		2002	○
459					イケダ シンイチ 池田真一	イ ボク リレキシヨ 生きたい！！－僕の履歴書	リーブル出版	闘いの日は続くけど、僕は生き続ける。最後の最後まで生き続ける。白血病、肺線維症と難病に襲われながらも懸命に闘い続ける著者が綴るケータイ闘病記。	2008	○
460					イシハラ ヤスユキ 石原靖之	ケツエキガタ カ ハッケツビョウ 血液型が変わっちゃった！ 白血病、 カハンシン マヒ コツズイインヨク シ フチ 下半身麻痺、骨髄移植…死の淵から セイカン の生還	マキノ出版	人は死と対峙した時に何を思うのか。折れた心はどう立て直せばいいのか。急性骨髄性白血病とはどんな病気なのか。背骨を削って腫瘍を取る手術、下半身麻痺、骨髄移植と、5年に及ぶ闘病生活の心情の変化を赤裸々に書き綴る。	2004	○
461				え	エンドウ マコト 遠藤允	サイ ワカレ ナカホリ ユキコ 21歳の別離 中堀由希子	学研	15秒に21歳の生涯を凝縮したようなスポットCMIによって、日本骨髄バンクのドナー登録者に寄与した1人の若き患者。死に直面しながら、骨髄バンク運動を展開し、天性の明るさで生涯を貫いた中堀由希子の青春譜。	1994	○
462					エンドウ マコト 遠藤允	サイ ワカレ ハッケツビョウ 21歳の別離 白血病とのたたかいに セイシュン 青春をかけて	学研M文庫		2001	○
463					オオイズミイツロウ 大泉逸郎	イノチ マゴ コツズイインヨク カゾク 命よ孫よ 骨髄移植をのりこえた家族 キズナ ゼンキョク の絆―その全記録	光文社	急性骨髄性白血病で倒れた長男は、奇跡的に父子間で型が一致し、骨髄移植が成功した。しかし、そのこと以上に家族の心を支えたのは、孫・慎太郎の存在だった…。闘病によって深まった家族の絆と孫への想いを綴る。	2000	○

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
464	血液・リンパ(白血病)	白血病		お	オオタケ 大竹あや	180ccのいのち	日本テレビ放送網	告知、ドナーを待ちわびる日々、骨髄移植、無菌室、合併症、院内感染…。白血病と出会い、生と死をともにした人々との5年にわたる哀しくもおかしい日々。数々の賞に輝いたテレビドキュメンタリーの感動を再び。	1997	○
465					オオタニ タカコ 大谷貴子	イ 生きてるってシアワセ	スターツ出版社	慢性骨髄性白血病の宣告、私には生きるチャンスがないと泣きながら「助けて!」と叫びつづけた日々。あれから10年、骨髄移植で難病を克服した著者の、感動の手記。女優・東ちづるとの骨髄バンクについての対談も収録。	1998	○
466					オオタニタカコ 大谷貴子	ハッケツビョウ セイカン キリ ナカ セイメイ 白血病からの生還 霧の中の生命	リヨン社	20代の青春期を、白血病との闘いと骨髄バンクの設立に注いだ著者の、ひたむきな生き方。骨髄提供という「善意」が確実に白血病患者のいのちの救済につながる。1991年刊「霧の中の生命」の改題、増補版。	2005	○
467					オオタミスズ 太田美鈴	アオ ソラ ム 青い空の向こうに	新風舎	2007	○	
468					ギョウテン ミヤコ 行天都 ギョウテン アサミ 行天朝美	ワタクシ ムスメ ハッケツビョウ ムスメ シ 私の娘は70cm 白血病の娘が死の淵で体験した不思議な記録3時間36分	河出書房新社	18歳の春に白血病になり死の淵を行ったり来たりしながら体験した真実。無菌室のカーテンのこちら側から見た母の記録と、発病から3年間の娘の詩でつづる感動の一冊。NHK「青春メッセージ2000」二十歳賞受賞作品収録。	2001	○
469					クサカワ ヤエコ 草川八重子	カゼ デンゴン 風の伝言	かもがわ出版	1990	○	
470				く	クサマ シュンスケ 草間俊介	ハッケツビョウ チリョウ ニッキ カゾク 白血病「治療」日記 家族でのりこえた500日	東京新聞出版局	45歳の私は臍帯血移植を受け、「完治率30%」から職場復帰した。急性白血病に冒された記者が綴る記録。『中日新聞』『東京新聞』連載「白血病入院日記」を単行本化。	2006	○
471					クノ テツヒロ 久野哲弘	いのち煌めいて 由希子白血病と闘った青春	東京新聞出版局	21歳。壮絶な生命の記録。自ら慢性骨髄性白血病と闘いながら、骨髄バンクキャンペーンガールとして活躍した中堀由希子さんの切なく激しく生きた3年間をつづる。彼女の遺志は生きている。	1994	○
472					コバヤシ モトコ 小林茂登子	あたりまえの日に帰りたい 骨髄性白血病からの生還	時事通信社	ある日、突然宣告された慢性骨髄性白血病。突然直面した死の恐怖に立ち向かい、驚嘆すべき沈着さと深い信仰に根ざした勇気をもって、ついに打ち克ち、見事に生還を果たした主婦の記録。	2000	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
473	血液・リンパ(白血病)	白血病		さ	サイトウ ユカ 斉藤由香	ユカ 由香ちゃん笑顔ありがとう	リトル・ガリヴァー社		2002	○
474					タイラノフコ 平宣子	ムスメ ミキ 娘・美樹を絶対に死なせない!	パールバック		2006	○
475					タイラ ミキ 平美樹	ビョウイン デ 病院を出よう!	星湖舎		2004	○
476				た	オレ 俺、マジダメかもしれない… 「急性リ ンパ性白血病」で逝った最愛の息子 へ	オレ 俺、マジダメかもしれない… 「急性リ ンパ性白血病」で逝った最愛の息子 へ	太陽出版	敏行はひとりぼっちじゃない。みんなの心の中に生き続けるよー。大好きなバスケットにバンド、愛車のモンキー、そして愛する家族と友達を残して、18歳で旅立った敏行。精いっぱい生きた証を、母が綴った愛の記録。	2008	○
477					タカハギ ヒロユキ 高萩博幸	カ 枯れない花になる日まで	碧天舎		2006	○
478				で	シ ウミ オヨ 死の海を泳いでースーザン・ソクタグ 最期の日々	シ 死の海を泳いでースーザン・ソクタグ 最期の日々	岩波書店	亡くなるまでの9カ月間、傑出した批評家・作家であったスーザン・ソクタグは、文字通り「死の海」を泳ぎ続けた。その短い期間、母に寄り添い、ともに泳ぎ続けた一人息子が記した渾身のルポルターージュ。	2009	○
479				と	トクダ ヒデキ 徳田秀樹	ユメ 夢をあきらめないで	北國新聞社		1993	○
480			○	な	ナカシマ マナミ 中島真奈美	カゾク 家族のたからもの 夫・カンニング中 島が遺した最期の日記	日本テレビ	白血病の闘病中に肺炎を併発し、35歳の若さでこの世を去った、お笑い芸人・カンニングの中島忠幸。彼の知られざる闘病生活、家族との愛、相方竹山との友情などを、妻の中島真奈美が綴る。	2007	○
481					ナカタ カンジ 中田完二	イッスン サキ ヒカリ 一寸先は光 それでも生きたい	広済堂出版	遠い未来のことを考えると、そこには自分の力では変えられないものもある。しかし、今この時をどう生きるかによって、次の瞬間を変えることはできる。白血病、脳腫瘍、そして全盲との闘いで見た著者の命の輝き。* 脳腫瘍	2001	○
482					ナスダ ミシル 那須田稔 キシカワ エツコ 岸川悦子	カア 母さん子守歌うたって 寸越薫・いの ちの記録	ひくまの出版	滋賀県信楽に生き、ひたすら陶芸の道を歩み続ける神山清子と、31歳の若さで白血病に倒れた同じ陶芸の道を志した息子賢一の、母と子の命の記録を綴った涙と愛の物語。	2002	○

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
483	血液・リンパ(白血病)	白血病		に	ニシカワ ナガミキ 西川永幹	ベター・ハーフ	ごま書房	十代で出会い、二十代で結ばれ、三十年間愛を育んだ夫婦の絆は、病魔によっても引き裂かれることはなかった。白血病のため帰らぬ人となった最愛の妻に捧げる思い。* 乳がん	1998	○
484			は	ハニオカ ケンイチ 埴岡健一	インターネットを使ってガンと闘おう	中央公論社	情報が病気と闘う武器になる。みずからの介護体験、日米諸事情の比較を通じ、パソコンを駆使した新・闘病法を提唱。役に立つ情報を見つけるためのインターネット「リンク集」収録。	1998	○	
485				ハヤシ 林まどか	ハッケツビョウ 白血病ママ	文芸社		2008	○	
486			む	ムラヤマ マサノリ 村山正則	ハッケツビョウ セイカン 白血病からの生還	いのちのこ とば社		2001	○	
487			や	ヤカタ チアキ 尾形千秋	セイジン サイボウ ハッケツビョウ トウビョウキ 成人T細胞白血病ATL闘病記 乗り 越えることが運命ならば	南方新社	発症2年でほとんどが死亡するといわれる成人T細胞白血病(ATL)。しかし発症から6年がたちながら元気に生活している人がいた。父親の闘病の様子を綴ったブログと近況をまとめる。	2008	○	
488		ヤマグチ エツコ 山口悦子	テンゴク マホ 天国の真帆へ 白血病と闘った娘へ の手紙	あけび書房	3年11カ月の闘病生活にもかかわらず、天国に旅立ってしまった娘・真帆。書き残した多くの闘病日記や手紙とともに、残していつてくれたメッセージを何かの形にと、26年半の人生をありのままにつづった記録。	2007	○			
489	白血病	白血病			ヨシイレイ 吉井怜	カミサマ ナニ 神様、何するの… 白血病と闘ったア イドルの手記	幻冬舎	人気絶頂の吉井怜を襲った突然の不幸-白血病。抜け落ちる髪の毛、黒く腫れあがる顔、絶え間なく続く吐き気、ライバルの活躍、そして不妊…。涙が止まらない、壮絶なる闘病記。	2002	○
490			よ	ヨシダトシヤ 吉田寿哉	フタリ テンシ 「二人の天使」がいのちをくれた 白 ツビョウ セイカン サイタイケツ イシヨクトウビョウキ 血病からの生還、臍帯血移植闘病記	小学館	化学療法を続けるか、骨髄移植をするか。「いのちの選択」に悩むなかで知った、第3の治療法「臍帯血移植」。そして僕は、名も知らぬ赤ちゃんからいのちを分けてもらった! 白血病と闘った著者の472日間のドキュメント。	2005	○	
491				ヨシノケイコ 吉野啓子	イ もっと生きたい 白血病と肝臓ガンで 逝った夫とその妻の手記	南雲堂	二人のために生きてという妻の手紙で壱が切れ 闇夜の中でひとり涙す…。万葉をこよなく愛した元・NHKアナウンサー吉野正美の凄惨な手記と、励まし続けた妻の献身的看護の記録。* 肝臓がん	1999	○	

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館	
492	血液・リンパ(白血病)	骨髄異形成症候群		さ	サカイチカコ 坂井千賀子	ドメ タンジョウビ 2度目の誕生日	文芸社		2009	○	
493				な	ナカミノユウコ 中溝裕子	みんながいるから今があるから	ホーム社	プロゴルファーとなって3年目、骨髄異形成症候群という、骨髄移植以外に治療方法がない難病の宣告をされた著者。多くの人々に励まされた日々を振り返り、骨髄移植や拒絶反応との闘いの中で知った「生きている喜び」を伝える。	2001	○	
494			骨髄異形成症候群		な	ナカミノユウコ 中溝裕子	リカバリー！ コツズイイシヨク ノ コ 骨髄移植を乗り越えて	新潮社	夢のプロゴルファーになった著者を襲った「骨髄異形成症候群」。骨髄移植を受け新たな命を得るが、後遺症で更に苦しい入院生活に。絶望に沈む著者を支えたものは…。読者に元気を贈る熱血闘病記。	2005	○
495					ま	マサカリホノオ 正狩炎	ハンセン 反戦ストリッパー白血病に死す 沢口 トモミデン 友美伝	グラフ社	時代を踊り、時代に倒れたひとりの女がいた。職業、自衛官を経て踊り子-。1979年の自衛官時代から、踊り子の時代、風組日本党の結成、そしてイラクでの反戦アピールまで。被爆2世として白血病に倒れた波乱の生涯を描く。	2006	○
496					よ	ヨシザワミドリ 吉沢翠	いまを翔けぬけろ	新風舎		2006	○
497	血液・リンパ(多発性骨髄腫)	多発性骨髄腫		あ	アサスマ マサミ 浅妻正美	オ オ ミミ ケツエキ ツ 老いが老いを看るとき 血液ガンの妻 マ カイゴ を介護して	日本評論社	老いた夫が、妻が、パートナーを介護するケースが今後ますます増えるだろう。「二人」が「一人」になる時、どう生きるか。不治の病と宣告された末期ガンの妻を、自宅で介護しようと決意した男の奮闘記。	1997	○	
498				あ	アソウ コウジ 阿相幸治 アソウ ノブコ 阿相信子	ホネ キ タハツセイ コツズイシユ イ 骨が消えた！ 多発性骨髄腫で逝つた イン トウビョウキ た医師の闘病記	メトロポリタン出版	自分で自分の病気を診断、専門家に最終診断を依頼、そして結果は妻以外の身内に秘密にしよう決心する…。消えた骨に我が目を疑った日から4年8ヵ月。自らのガンを冷徹に見据えつづけた医師の記。	1994	○	
499				こ	コノノシユウサク 鴻農周策	イノチ 命いっぱい生きた日々	NHK出版	闘病日誌と書くのはよそう、闘病、克病を含む、今の、明日の、人生の日々の日記を考えよう…。43歳で末期ガンの宣告を受けたディレクターが、死の恐怖と激痛の中で、仕事に命を燃やしながら克明に書き続けた8年間の日記。	1994	○	
500				た	田中千勇子	届かぬ恋文	もぐら書房		2007	×	

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
501				ま	マイケル・ギア リントツシュ	トウガンキ 闘癌記「死の宣告」と私の選択	原書房	診断の結果は癌。化学療法を開始しなければあと数カ月の命と宣告された著者は、化学療法を拒否し、自分自身が納得できる前向きな治療生活を始め、死を克服した。闘病生活から医学的な疑問、問題点までを綴った、命輝ける手記。	2003	○
502	血液・リンパ(悪性リンパ腫)	悪性リンパ腫	○	あ	アンドウ ヨシノリ 安藤義教	セキベツ トモシビ タタカ 惜別の灯 がんと闘いぬいたある警 サツカン キロク 察官の記録	MBC21	悪性リンパ腫発病から10年の間に著者の書きつづった日記、メモ、俳句、詩などをまとめたもの。闘病生活の中の心の叫びや家族への愛、抗がん剤や放射線治療といった現代医学への疑問が率直に語られている。	1996	○
503			○	い	イトウ ジョウ 伊東丞	ワ ユビョウ ヒビ 吾が遊病の日々	東京図書出版会		1999	○
504			○	う	ウツミ ハルヨ 内海春代	コイ サイボウ 恋する細胞たち ガンの日々	幻冬舎ルネッサンス		2006	○
505			○	せ	セキネ トクオ 関根徳男	ガンとして生きる 明日死んでもよし ヒヤク イ 百まで生きてよし	慶應義塾大学出版会	癌になり、その後、生かされた。その経験が「明日死んでもよし、百まで生きてよし」という心境を生んだ…。2度の癌の手術を経験した著者が、入院日記のほか、8年間の闘病で辿りついたことをまとめる。	2005	○
506			○	た	タワダ ナツコ 多和田奈津子	へこんでも 25歳ナツコの明るいガン トウビョウキ 闘病記	新潮社	おしゃれなOLだったナツコは25歳で再びガン患者になったけど、苦しい治療をクリアして大切なものを勝ち取った。友情、家族愛、そして生きる喜び!! 笑って泣いて感動する「明るいガン闘病記」。	2002	○
507	悪性リンパ腫	悪性リンパ腫	○	に	ニシカワ ユキコ 西川由起子	トキ ユ 時の揺りかご	新風舎	明日のことは明日に任せて、揺られてみよう 時折、かごの縁に手をかけて世界を眺めてみよう 揺りかごから落ちたりもしてみよう 悪性リンパ腫と診断された著者が、その事実屈することなく綴った手記。	1997	○
508			○		ニシモト フジコ 西本富士子	スナオ 素直になれたら	新風舎		2005	○
509			○	の	ノガワ 野川はるひ	ユウヤ ム ガワ 夕焼けの向こう側	文芸社		2006	○
510			血液・リン		○	は	ハマハタ オサム 浜畑紀 ハマハタ ミエコ 浜畑美恵子	アイ シ 愛と死のはざままで ガンと闘う夫と妻 ツマ アイ クジュウ オウフク ショカン の愛と苦渋の往復書簡	恒友出版	最期までガンと知らずに夫は逝った。絶え間なく襲いくる、病の苦しみと闘う夫。一人残され、家事と子育てに忙殺される妻。将来への不安、医師への不信、少しずつ広がる心の隙。心と心を交わし合い真実の愛を知った夫婦の物語。

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館	
511	パ(悪性リンパ腫)		○	ひ	ヒロサワ ナオミ 広沢直美	ヒ 日がのぼり日がしずむ	自分流文庫		1997	○	
512			○	ふ	フセトクマ 布施徳馬	イシヤ 医者が、がんで死と向かい合うとき	講談社	「医師と医学と医療を信じ、賭けた。しかし…」がんの再発で死に直面した外科医の告白。がん治療の最前線の現実と、生への執着、死の恐怖との闘いを赤裸々に書き下ろす。家族への手紙も収めている。	1994	○	
513			悪性リンパ腫	○	み	ミネ ナオノリ 峯直法	アクセイ シュ 悪性リンパ腫なんて怖くない 直君の アクセイ シュ カクトウキ 悪性リンパ腫格闘記	文芸社	「血液のがんです」「なぜ私が?」たくさんの善意と支援に支えられて骨髄移植という想像を絶する苦難を乗り越え、奇跡の“完全寛解”に至るまでの1年間。リンパ腫との格闘経過や治療の内容、エピソードなどを綴る。	2007	○
514				○	や	ヤマタニ ヨ 山谷えり子	ハシ 走りつづけて 父・山谷親平 五千六 ビヤクイツカイ アサ 百一回の朝	ニッポン放送出版		1985	○
515				○	り	リー・あおい	テキ トウビョウキ アメリカ的がん闘病記 すべては告知 ハジ から始まった	東京書籍	日本の医療に絶望し、アメリカでのガン治療を決意した夫。アメリカの医者には患者にどのような話し方をするのか、アメリカの人たちは遺族にどう接するのか。見知らぬ地で夫の闘病を支え続けた勇氣ある妻の記録。	1999	○
516	血液・リンパ(悪性リンパ腫)	ホジキン病	○	よ	ヨコイ マサヒロ・ 横井正裕・とし ヨ 子	ビョウシツ 病室のひとりごと	文芸社		2001	○	
517	小児がん	小児がん		あ	アサノ タカコ 浅野多歌子	アオ ヨア 碧い夜明けに母となるー小児ガンと タカ の闘いの記録	遊タイム出版		1995	○	
518				さ	サトウ リツコ 佐藤律子	タネ コ 種まく子どもたちー小児がんを体験し シチニン モノガタリ た七人の物語	ポプラ社 (角川文庫は2006)	小児ガンにかかった7人とその家族の手記。難病と向きあって日々を精一杯生きる姿は、生きること・死ぬこと、人の尊厳、家族や人々の絆など、多くの大切なことを教えてくれる。	2001 2006	○	
519				た	タカトイ イサオ 高遠勲 タカトイ イク 高遠郁	わたしの家の戦士と天使	文芸社		1995	○	
520				に	ニシダ オサム 西田修	ヨウスケ 陽介、パパがついてるぞ	かもがわ出版		1992	○	

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
521				み	ミツタケリョウ 光武綾	アイ愛してるよカズー ^{ショウニ} 小児ガンと ^{タカ} 闘った ^ハ 母 ハオヤムスコ ^{アイ} 親と ^{キロク} 息子の愛の記録	長崎文献社		2008	○
522	その他	嗅神経芽細胞腫	○	よ	横井千香子	摩優の樹ーいつか天の川でー	風葉社	* 横紋筋肉腫	2003	○
523		血管腫		こ	ヨシエケンキチ 近衛剣吉	ガンに ^カ 克つ ^{チカラ} 力 ^{ワタクシ} こうして ^{ビョウシツ} 私は病室を出 ^デ た	三一書房		1986	○
524		骨溶解性悪性血管腫	○	ま	マツシタ 松下かつし	ホネク ^{タロウ} 骨食 ^{ホネ} い ^ト 太郎 ^{ナンビョウ} 骨が溶ける難病とガン の ^{コクフク} 克服 ^カ を描 ^{ドウワ} いた ^{シュキ} 童話と手記	ミネルヴァ書房		1990	○
525		神経内分泌腫瘍	○	い	イワイヒロシ 岩井寛口述 マツオカセイゴウ 松岡正剛構成	セイ ^シ 生と ^{キョウカイセン} 死の境界線 ^{サイゴ} 〈最後の自由〉を ^{ジュウ} 生 ^イ きる	講談社		1988	○
526		腺がん			げ	ゲール・エルト ン・メーヨー	ガンとともに ^イ 生きる	作品社	ストレスから生じた死病、ガンを強い精神力で乗り越え、発病以来24年を生き抜いた半生の記録。病魔との極限の戦いを通して存在の意義を平静に見極める絶筆となった感動の手記。	2003
527	未分化小細胞がん			き	キタムラミヨコ 北村美代子	サエ ^{ネンカン} 沙恵ちゃん25年間ありがとう	明窓出版	「未分化小細胞ガン」という病のため、最愛の娘と25年で別れなければならなかった著者がその闘病の日々を綴った、日記形式のドキュメンタリー。発病から末梢血造血幹細胞移植、転院、そして永訣の時までを、詳細に記す。	2006	○
528	転移性皮膚				イワマツヒサオ 岩松久保	ウラギ ^{カンジャ} 裏切られたガン患者たち	五月書房	末期ガン患者は病院に見捨てられてしまうのか。ガン治療で医療機関に入院した人々の声をもとに医療現場の実態を物語風に綴り、医療現場改善のための問題提起を行う。* 乳がん	1999	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
529	その他	がん(鑑状がん)		い	イワマツ ヒサオ 岩松久保	ガン患者が病院から追われるとき	主婦の友社	ガンで入院した病院から退院を強制される、そんなことが許されるだろうか。しかし著者の妻は、臓器移植の美名のもとに、病院を追われた。日本の病院と患者との間にくすぶる問題を提起したドキュメント。*乳がん	1994	○
530		心筋梗塞		あ	アギ オウスケ 阿木翁助	わが命の灯を 心筋梗塞と肺ガンを越えて	講談社	*肺がん	1990	○
531		リンドウ病(フォン・ヒツペル-リンドウ症候群)		お	オオサワ ツネヤス 大澤恒保	ひとりのひとを哀しむならば	河出書房新社	愛する家族の死がくれた、「書く」という習慣。かつて傾倒した西東三鬼の俳句や散文に同質の波長を感じとり、三鬼と戯れながら書き続けた、母と二人の弟たち、そして自分自身への鎮魂歌。第5回蓮如賞佳作受賞作品。	1999	○
532		アンソロジー		あ	アサヒ シンブンイリョウ 朝日新聞医療グループ	がん患者を生きる	朝日新聞社	医師の診断・治療法は絶対か? 最先端技術・未承認薬の効果は? 余命宣告のショックからいかに立ち直るか? だれもが悩む問題を患者や家族の体験からつづる。『朝日新聞』連載を単行本化。	2007	○
533				い	イノウエ レイナ 井上玲奈 トリゴエ シュンタロウ 鳥越俊太郎 サルワタリ ヒトミ 猿渡瞳 他	生きる。 がん向きあう7人のストーリー	幻冬舎	がんを乗り越えた彼女に、氷上のプロポーズが待っていた。がんを父を亡くした後、自身もがんの宣告を受けたフィギュアスケート選手・井上玲奈をはじめ、がん向きあう7人の希望のストーリーを収録。	2009	○
534					いのちの歳時記編集委員会	いのちの一句 がん向き合う言葉	毎日新聞社	渥美清、夏目雅子、吉村昭、倉嶋厚…。25人のがん経験者が詠んだ俳句と、彼らのがんにまつわるエピソードを紹介。また、がん経験者に加え、その家族や友人、医療関係者から公募した「がん俳句」も収録する。	2010	○
535					カゲヤマ カズコ 影山和子	ガンのある日常 体験者18人のいのちの力	NTT出版	愛する人を看取り、自らの一部を失いながら、人はどのように「ガンのある日常」を受け入れていったのか。様々なかたちでガンと直面した18人の証言。『月刊がん・もっという日』連載をまとめる。	2003	○

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
536	その他	アンソロジー		か	カメイ マサキ 亀井真樹 カワグチ ヤスシ 川口恭	カガヤ いのち輝かそう いのちの万葉集1 マンヨウシュウ	ロハスメディカル	誰よりもつらく苦しいはずのあなたからの「ありがとう」…。がん・難病と共に生きる人々の真実の言葉。「第1回いのち輝かそう大賞」応募作品139編の中から、大賞そのほか各賞にノミネートされた57作品を収録。	2007	○
537					カメイ マサキ 亀井真樹 カワグチ ヤスシ 川口恭	カガヤ いのち輝かそう いのちの万葉集2 マンヨウシュウ	ロハスメディカル			○
538					カメイ マサキ 亀井真樹 カワグチ ヤスシ 川口恭	カガヤ いのち輝かそう いのちの万葉集3 マンヨウシュウ	ロハスメディカル			○
539				き	キクチ ケンイチ 菊池憲一	カンジャ がん患者として長期生存する医者たち チヨウキセイゾン イシャ	海拓舎	「私もがん患者です。一緒に闘いましょう!」医者が末期がん患者として死と向き合ったとき、病を克服するために選択した治療法とは? 5人の医者たちが自らのがん体験をもとに、患者と医療の在り方を語る。	2000	○
540					キンモト ヨウコ 岸本葉子	ヤマイ コ 病を超えて いのちの対話 タイワ	中央公論新社	がんを生きる。ひとりを生きる。スピリチュアルを生きる。鎌田實、逸見晴恵、香山リカ、山折哲雄…。がんを体験した著名人、専門医、宗教者など12人の賢者と語った対談集。	2008	○
541				つ	ツネカゲ ジュンイチ 常陸純一	がんになって生きるとのこと、死ぬということ イ	潮出版社	井上ひさし、青島幸男、赤塚不二夫、本田美奈子…。彼らはがんを宣告されてから亡くなるまで、どのようにがんと向き合い、人生をまっとうしたか。著名がん患者19人の終末期の物語。『がんサポート』連載を大幅加筆・修正。	2013	○
542					テイビーエス スー TBS『スーパーフライデー』 パーフライデー	マッキオット ム がん末期夫と向きあった最後の時間 サイゴ ジカン	マガジンハウス	TBS「スーパーフライデー」で放送された内容の単行本化。大泉滉夫妻、浜口庫之助夫妻など5組の絶望と光明の中で知った至上の夫婦愛。ふたりでガンと闘い尽くした濃厚な日々を収録する。	2000	○
543					ニシデ マユミ 西出真由美	カンジャ 患者180の本音 ホンネ	主婦と生活社	家族、医師、会社に面と向かっては言えないことも、匿名で1行なら聞かせてもらえるのでは? 患者の数だけ人生があり、つぶやきがある。愚痴でも、感謝でも、泣き言、慟哭、暴言でも構わない。がん患者のひと言本音を集める。	2003	○

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	希少がん	かな	著者名	書名	出版社	概要	発行年	図書館
544	その他	アンソロジー			ニホン 日本ペンクラブ	ミナ ケシキ カ 見慣れた景色が変わるとき「癌告知」18人の知恵と勇気に学ぶ	光文社	自分自身や身内が癌を告知されたらどうするか。癌をどのように告知されて、その告知をいかに受けとめ、何を考え、どう行動して自分なりにどのような結論を持っていったかななどを綴った、18人の貴重な体験手記。	1999	○
545			ひ	ヒルマ マサアキ 肥留間正明	タタカ がんと闘ったスターたち	テレビ朝日		1993	○	
546				ヤナギタ クニオ 柳田邦男	ニン ユウキ ガン50人の勇気	文芸春秋		1989	○	
547			や	ヤナギタ クニオ 柳田邦男	シン ニン ユウキ 新・がん50人の勇気	文芸春秋	迫り来る死を前に人はいかに生きるかー。昭和天皇から本田美奈子まで、がんと向き合った作家・俳優・音楽家・学者・僧侶・企業人50余名の「生と死」のかたちを綴る。最期の瞬間まで生を全うした感動のドキュメント。	2012	○	
548			よ	ヨシダ ケンジョウ 吉田健城	カンジャ キ ユウメイジン ニン 「がん」は患者に聞け! 有名人16人の全闘病記録	徳間書店	がんと告知されたら、あなたはまず何を考えますか? 山田邦子、栗本薫、大橋巨泉…。読めば勇気が出る16人の優しい言葉を集める。『がんサポート』連載を加筆訂正して単行本化。	2009	○	
549					ブンゲイ シュンジュウ スペシャル 文芸春秋SPECIAL No.18(2011年秋号) がんを生きる	文芸春秋		2011	○	

* 図書館…市内図書館の所蔵の有無(平成30年1月時点)

* 色のついているものは他疾患と重複しているもの

闘病記で生きる力を

～がんに向き合うために あなたに役立つ500冊～

発行 平成31年2月

さいたま市保健福祉局保健部健康増進課

〒330-9588

さいたま市浦和区常盤6-4-4

TEL 048-829-1294

FAX 048-829-1967